

算命学中庸

【初年】 59 回目

59 回目の授業はこのページからです。

授業科目 【天中殺論】 (5)

・【初年】 59 回目 【天中殺論 (5)】 「生日中殺」 01

⇒ 生日中殺 (せいじつちゅうさつ)

『生日中殺』は天中殺のなかのか変わり種だねです。

『なぜ……変り種なのか』天中殺そのものは、自分自身の天中殺範囲を知るものです。

つねに「日干支 (自分)」から天中殺範囲をみます。

天中殺表 で自分の天中殺を探すときは「日干支」を基準にしてさがします。

〔たとえば〕日干支「しんきんのうぼく辛 卯」は「うまひつじてんちゅうさつ午未天中殺」です。

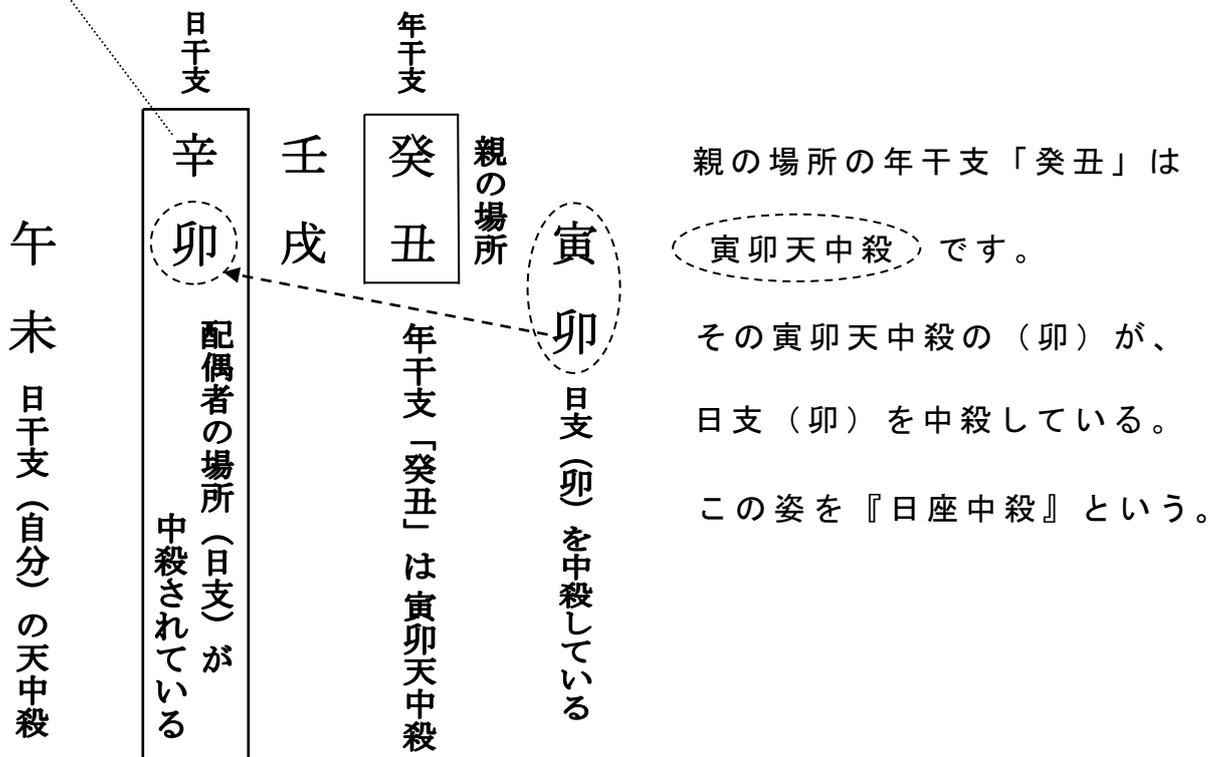
この「^{うまひつじてんちゆうさつ}午未天中殺」は「日干支（自分）の天中殺」です。

ところが……『^{せいじつちゆうさつ}生日中殺』は自分の宿命の「^{ねんかんし}年干支」から天中殺範囲をみます。基準にするのは「年干支」です。

「年干支（親の場所）」を基準にして天中殺範囲をさがします。その意味で^{へんしゆ}変種です。

宿命（1）生日中殺 のような命式があるとします。

日干「辛金」は自分自身



参考：基準 [物事を比較・判定するときの基礎になるよりどころ]

参考：異なる [ある事柄が基準となる事柄が他の同様の事柄と同一でない]

参考：変わり種 [ふつうのものと違い、変わったところがある種類。変種]

ねんかんし きすいのうしど かんし
年干支「癸丑」は親の場所にある干支です。

『生日中殺』は親の場所の年干支「癸丑」を基準にして天中殺範囲をみますから寅卯天中殺になります。つまり、親の場所からみた不自然融合を意味します。

 **天中殺表** 「癸丑50」寅卯天中殺の範囲です。

宿命には「親の場所」「子供の場所」（配偶者の場所）
というように人物の場所を配置できます。

はいぐうしゃ ぼしよ にっし
（配偶者の場所）は（日支）です。

そうしますと、なぜ親の場所から天中殺範囲をみるのかということなのです。

ここでは **宿命（1）生日中殺** の命式を〔例にして〕話を進めます。

日干支「辛卯」の人は、両親の存在があって誕生します。

親の存在を抜きにして、「辛卯」の人物を語ることはできません。

それゆえ〔親からも天中殺を見ることが出来る〕という考え方をしています。

人物の配置として「月干は子供の場所」「年干は親の場所」
（日支は配偶者の場所）です。

人物の話し・場所の話というのは、基本的に自分が誕生した^{あと}後の話です。

自分より先に生まれた兄弟がいる人もおられますが、^{ぜったいてき}絶対的考え方として、自分の宿命のなかで自分より先に生まれたのは親だけです。

親が自分を^う産んでくれたわけですから、親と自分のあいだには、最も密接な関係が^{そんざい}存在します。それゆえ、親の場所「年干支」から、子供の天中殺をみることができる。と考えています。

宿命（1）生日中殺 を見て理解できると思いますが、『生日中殺』は年干支（親の場所）から天中殺範囲をみます。

参考：絶対的〔事物が絶対の状態にあるさま〕

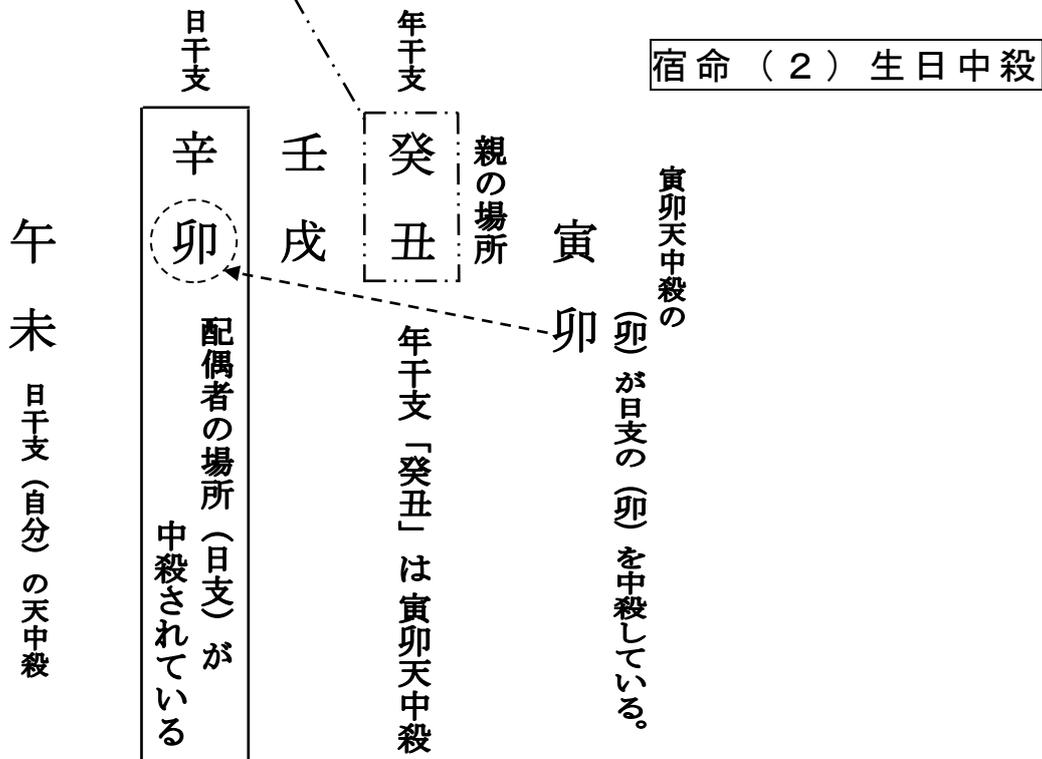
〔比較したり置き換えたりできず、ほかからどんな制約もうけないさま〕

参考：存在〔客観的事実としてそこにあること〕

天中殺表

甲寅 51	甲辰 41	甲午 31	甲申 21	甲戌 11	甲子 1
乙卯 52	乙巳 42	乙未 32	乙酉 22	乙亥 12	乙丑 2
丙辰 53	丙午 43	丙申 33	丙戌 23	丙子 13	丙寅 3
丁巳 54	丁未 44	丁酉 34	丁亥 24	丁丑 14	丁卯 4
戊午 55	戊申 45	戊戌 35	戊子 25	戊寅 15	戊辰 5
己未 56	己酉 46	己亥 36	己丑 26	己卯 16	己巳 6
庚申 57	庚戌 47	庚子 37	庚寅 27	庚辰 17	庚午 7
辛酉 58	辛亥 48	辛丑 38	辛卯 28	辛巳 18	辛未 8
壬戌 59	壬子 49	壬寅 39	壬辰 29	壬午 19	壬申 9
癸亥 60	癸丑 50	癸卯 40	癸巳 30	癸未 20	癸酉 10
子丑	寅卯	辰巳	午未	申酉	戌亥
12・1	2・3	4・5	6・7	8・9	10・11

『生日中殺』は親の場所からみる不自然融合を意味する。



親の場所の年干支「癸丑 50」を **天中殺表** でみると……
寅卯天中殺の範囲です。卯が日支を中殺しています。

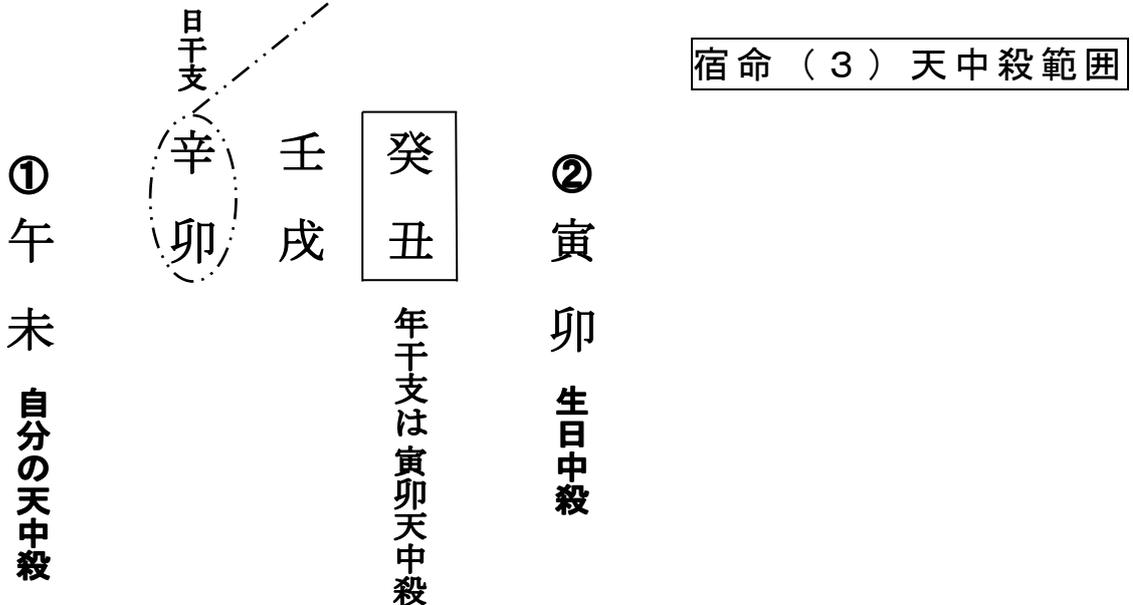
🔍 **宿命(3) 天中殺範囲** を見てください。

『生日中殺』の場合は **天中殺範囲** を **2箇所** に書きます。

- ① 自分の天中殺 ② 生日中殺

天中殺表

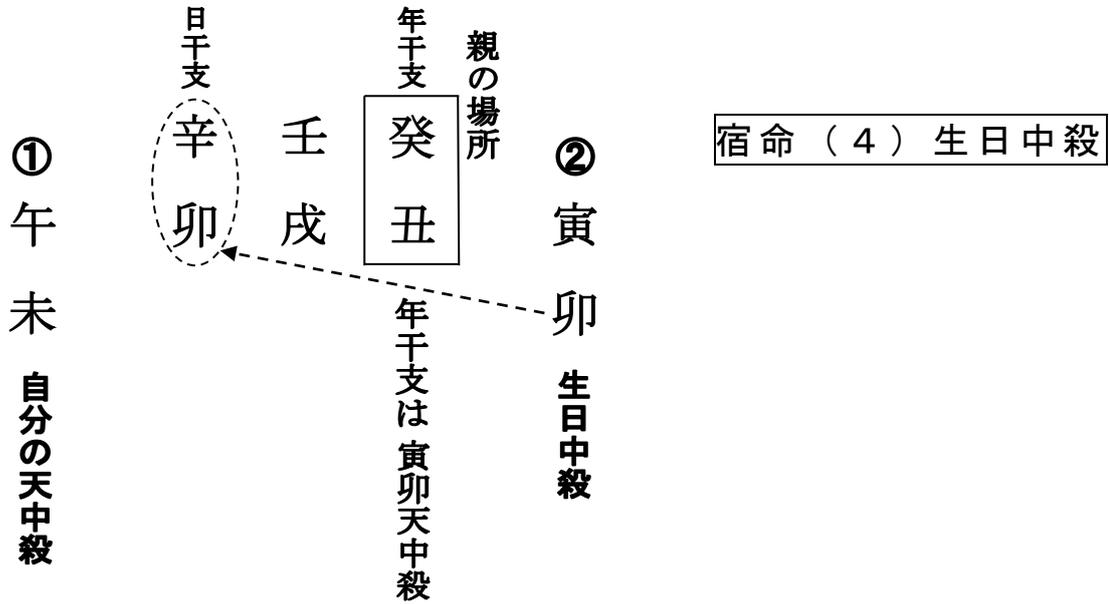
甲寅 51	甲辰 41	甲午 31	甲申 21	甲戌 11	甲子 1
乙卯 52	乙巳 42	乙未 32	乙酉 22	乙亥 12	乙丑 2
丙辰 53	丙午 43	丙申 33	丙戌 23	丙子 13	丙寅 3
丁巳 54	丁未 44	丁酉 34	丁亥 24	丁丑 14	丁卯 4
戊午 55	戊申 45	戊戌 35	戊子 25	戊寅 15	戊辰 5
己未 56	己酉 46	己亥 36	己丑 26	己卯 16	己巳 6
庚申 57	庚戌 47	庚子 37	庚寅 27	庚辰 17	庚午 7
辛酉 58	辛亥 48	辛丑 38	辛卯 28	辛巳 18	辛未 8
壬戌 59	壬子 49	壬寅 39	壬辰 29	壬午 19	壬申 9
癸亥 60	癸丑 50	癸卯 40	癸巳 30	癸未 20	癸酉 10
子丑	寅卯	辰巳	午未	申酉	戌亥
12・1	2・3	4・5	6・7	8・9	10・11



① 日干支「^{しんきんのうぼく}辛卯(自分)」の天中殺は午未天中殺です。

午未天中殺は(午)と(未)が天中殺範囲です。

宿命(4) 生日中殺 は——親の場所の「癸丑」^{きすいのうしど}からみて「寅卯天中殺」になります。



親の年干支「癸丑」^{きすいのうしど}は寅卯天中殺^{とらう てんちゅうさつ}です。

その寅卯天中殺が日干支「辛卯」を中殺しています。

この状態が『生日中殺』の特徴です。

『生日中殺』は親のほうが「辛卯」を中殺していますから、親が「辛卯」の人物と縁が薄いのです。

『生日中殺』をもつ「辛卯(本人)」は親と縁があります。

(このところを間違えないでください)

☞ 「生年中殺」は「日干支」^{にっかんし}が親を中殺しています。

生年中殺をもつ人物(自分)が親を中殺しています。

自分が中殺に追い込んでいる親を頼ることはできません。

親は生年中殺をもつ子供を頼れます。

☞ 「生年中殺」と「生日中殺」を間違わないでください。

『生日中殺』をもつ本人は親を中殺していません。

本人が親から中殺されています。

生日中殺をもつ本人は、親を頼ることができます。

親から面倒を^み看てもらえます。

親は自分を中殺している子供を頼れません。

親の側からすれば、慈しんで育てても^{どうり}道理に合いませんよね。

❖ 生年中殺をもつ子供が生まれたら、その子が親を中殺（不自然融合）するわけですから、子供が親は頼れません。しかし、親は生年中殺をもつ子供を頼れます。

❖ 生日中殺をもつ子供が生まれたら、親がその子を中殺（不自然融合）するわけですから、親は子供を頼れません。しかし、生日中殺をもつ子供は親を頼れます。

『生日中殺』をもつ子供が生まれました。

親は我が子が赤ん坊のときから成長するまで、一生懸命に面倒を^み看て育てます。

子供は親から面倒を看てもらって育ちました。

しかし……子供が成長したら、親はその子供を頼ることはできなくなります。

親にとってはバカバカしい話ですね。

我が子の成長を楽しみにして、一生懸命に育てたのに、子供はあっさりと家を出て行きます。

せっかく育てても、子供に面倒を^み看てもらえません。

親から『生日中殺』をもつ我が子を見ると、その子は……

「親のおもいどおりにならない子供」

「なにを考えているかさっぱりわからない」

「うちの子は変わっている」とおもうでしょう。

ここで言っている話は（生日中殺をもった子供を生んだ親に対してだけです）このような状態を起こします。

『生日中殺』をもつ子供が、世の中で変わり者とか、役に立たないとか、それとはまったく別の話です。

親が『生日中殺』をもつ我が子を見た場合と、世の中の^{ひと}人が『生日中殺』をもつ子供を見た場合とでは違います。

☞「親は生日中殺の子を頼れない」といいましたが、通常——親が我が子を頼れるのは、どのような状態なのかといえは〔親が我が子のなかで、1番頼れる存在は跡継ぎになった子供〕です。

「我が子が家業を継いでくれる」そのようになれば、親の側としては希望どおりでしょう。

子供が跡継ぎになってくれれば親は安心します。

しかし、親のほうは我が子であっても『生日中殺』をもっている子供を頼ることはできません。

それゆえ『生日中殺』をもつ子供が、親の跡を継ぐようになると、^{さいだい}最大に犠牲が大きくなります。

結果的に—— 親か子のどちらかが問題を起こします。

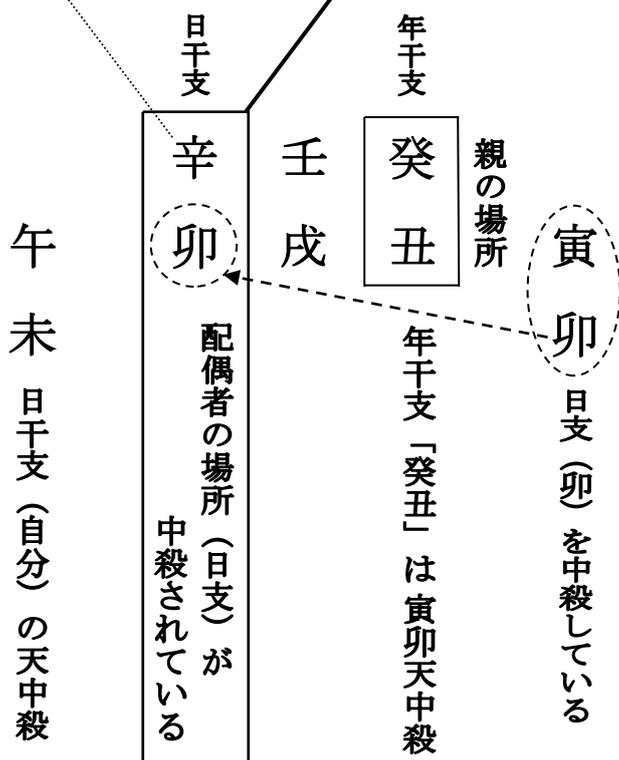
中殺されるのは（日支＝配偶者の場所）です。

日支（卯）が中殺を受けると、天干の「辛金」も不自然になります。

「天干」と（^{ひとくみ}地支）は一組です

日干「辛金」は自分自身

宿命（5）生日中殺



親の場所の年干支「癸丑」は

寅卯天中殺 です。

その寅卯天中殺の（卯）が、日支（卯）を中殺している。

この姿を『日座中殺』という。

誰でも結婚前は（日支）の場所は空席ですが、結婚すると配偶者の場所が人物で埋まります。

人物で埋まると『生日中殺』をもつ人に中殺現象がハッキリ出てきます。（親が日支を中殺している現象です。）

これは宿命に『生日中殺』をもつ人の特徴です。

配偶者場所（日支）が人物で埋まる。という意味は、
〔生日中殺をもっている〕〔生日中殺をもっていない〕
このことは関係ないのです。

男女ともに未婚のときは、自分の人体図の（日支）は空席です。

男性も女性も結婚すると、配偶者になる人物は否応もなく（日支）に座ることになります。

☞ 『生日中殺』は⇒親が『生日中殺』をもつ我が子の（日支）を中殺します。結婚して（日支）が人物で埋まると、中殺の現象がでてきます。

『生日中殺』をもつ人は結婚したら、親と一緒に暮らすのは避けるべきです。

夫婦仲を引き裂かれることも起こります。

〔たとえば〕 男性が『生日中殺』をもっています。
結婚してお嫁さんが来ると、男性の親に〔あんな嫁〕
というような言い方をされることも起こります。

それはお嫁さんが悪いということではないのです。
男性の配偶者の場所〔第一命星〕にお嫁さんが座った
ためです。

どのような女性と結婚してもそうなります。

そのような状態が高^{こう}じると〔夫婦仲を裂^さかれる〕と
いうことも起こり得るわけです。

『生日中殺』は自分自身の天中殺ではありません。
親の「年干支」の天中殺から（日支）をみています。
つまり、親から見た天中殺ですから、親元から離れ
てしまえば、そのような中殺現象が現^{あらわ}れにくくなります。
まったく出ないこともあります。

参考：高じる〔程度がひどくなる。〕

☞ 『生日中殺』をもつ人に中殺現象がでないようにするには……どうすればよいのでしょうか？

結婚をするときには、親の干渉^{かんしょう}を受けないことです。

結婚したら、親と離^{はな}れるべきです。

結婚する前には中殺現象が出ませんから「親孝行な子供だったのに……？」ということも起こります。

『生日中殺』をもつ子供が結婚すると、親に育ててもらった恩義を忘れたかのように、家を出て行ってしまう。そのようなことも起こるわけです。

参考：起こる〔今までなかったところに、ある状態が生じる。〕

親からすれば「あの女・あの男と結婚したせいだ」とおもうかもしれません。

結婚したら配偶者と一緒に家を出ることです。

『生日中殺』をもつ本人は、そのようにしたほうがよいのです。

親の思い通り^{おも だお}になってしまうと、『生日中殺』をもつ本人が結婚できないとか、あるいは、結婚したのに夫婦仲を裂^さかれるということが起り得ます。

結婚相手を悪^あし様^{ざま}にいわれることも起こります。

親と一緒に暮らさないことです。

☞ 陰占の（日支）が陽占人体図のどの場所に出てくるのかです。第一命星の攻撃本能の場所にでます。

	日干支	壬	癸	親の場所	②	宿命（6）生日中殺
①	辛	戌	丑		寅	
午	卯	辛	癸		卯	
未		丁	辛			
		戊	己			
		乙				

	第四命星（北）	
	習得本能	
▼ 第一命星（西）	主星（中心）	第三命星（東）
禄存星	魅力本能	守備本能
攻撃本能		
不自然になる	第二命星（南）	
	伝達本能	

〔乙木〕は人体図に禄存星としてでる。

日干「辛金」から、日支（卯）の二十八元の蔵干を見ると（卯木）の本元は乙木です。

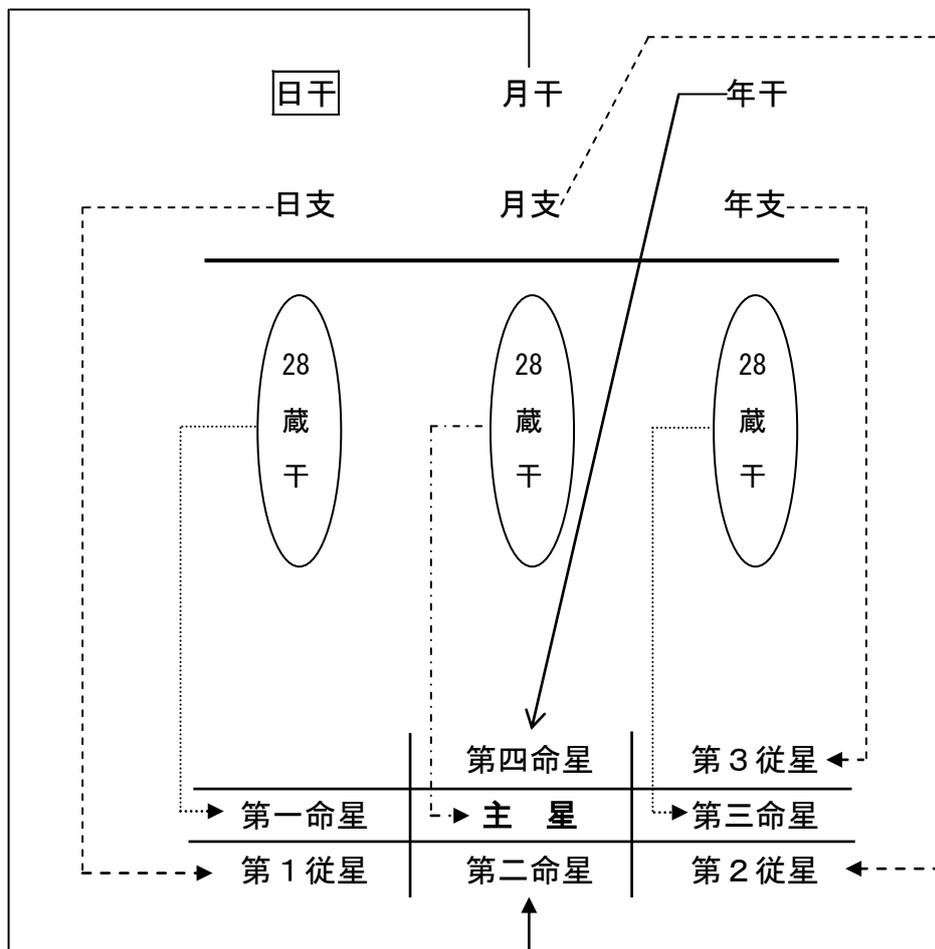
日干「辛金」から〔乙木〕とみると、（金→×木）ですから、十大主星は禄存星になります。参照⇒ 十大主星表

本能でいえば、攻撃本能が不自然な状態になります。

つまり、開拓精神・行動力が異常・不自然になります。

異常に働くか、まったく怠惰のどちらか極端な出方になります。中殺は異常ですからふつうの出方は少ないです。

〔星の変換〕 陰占から陽占



	年干	年支
日支の蔵干	月支の蔵干	年支の蔵干
日支	月干	月支

中殺現象は「^{ちゅうかん}中間^なが無い」ともいえます。

〔たとえば〕「知恵」ということでいえば……。

とても頭がよいということもあります
すごく頭が悪いということもあります  中間がない
このような状態になりやすいのです。

また、ある部分は非常に頭がよいが、ある部分では子供のような面もある。ということが起こります。

“^{こうげき}攻撃” という意味では、^{いと}意図する攻撃をすれば、まわりから誤解されます。

〔意図した行動は、周囲から反発されるとか、まわりから^{よろこ}喜ばれない〕ということが起こります。

〔意図しない行動であれば、周りから評価される〕ということが起こります。

参考：意図〔ある目的をもって、なにか実現しようとすること。〕

〔たとえば〕ある人物に対して、^{くち}口（^{べんぜつ}弁舌）で攻撃したとします。その相手に対して言い過ぎてしまったときに、攻撃した本人は、まわりの人たちが自分とおなじ意見で、自分に同意してくれるとおもったら、周囲から「言い過ぎだ・荒っぽい」と、反対に^せ責められてしまうのです。

あるいは、攻撃本能は行動でもあるわけですから、ほかの社員よりも少し早く入社して、会社のためにとか、部下のためにとか、役に立つとおもえる行動をしたとしても、周囲から見ると〔あの人の行動そのものは有り難いけど、なんとなく見えすいているよね〕というふうを受け取られてしまう。そのようなことが起こりやすいのです。

宿命（6）生日中殺 でいえば、陰占の（日支＝卯木）が陽占人体図のどの場所に出てくるのかです。

第一命星の攻撃本能の場所にでます。

日支は配偶者場所です。生日中殺は日支が中殺されます。

日支（卯木）の本元にあるのは〔乙木〕です。

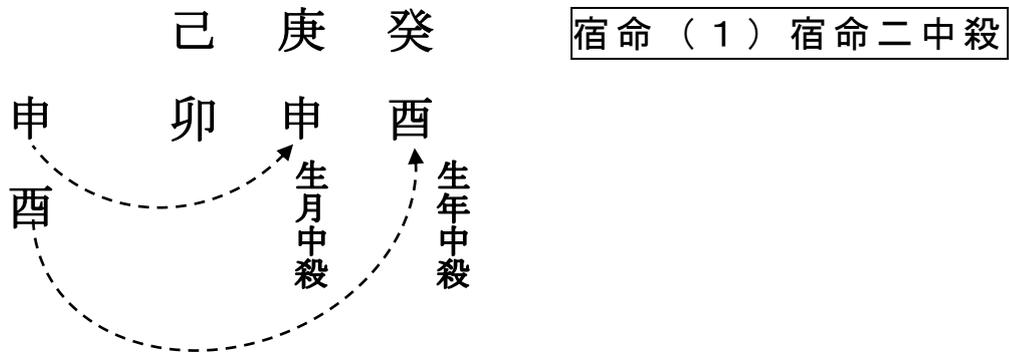
日干「辛金」から〔乙木〕をみると（金→×木）で禄存星になります。つまり禄存星が中殺現象を起こします。

禄存星が不自然になると、禄存星の質（やさしさ）とかの出方が不自然になります。ということです。

中殺というのは、ふつうではなく“異常”です。

『生日中殺』終わります。

📖 宿命二中殺 (しゅくめいにちゅうさつ)



日干支「^{きどのうぼく}己卯」は申酉天中殺です。

年支と月支を中殺(不自然融合)に追い込んでいます。
個人の宿命のなかに、生年中殺と生月中殺の2つをもつ姿を「宿命二中殺」といいます。

「宿命二中殺」の場合、生年中殺と生月中殺がもつ意味合いをそのまま加えます。

「生年中殺」親と縁が薄い。(親縁が薄い)

子供は早く親元を離れることです。

「生月中殺」子供と縁が薄い。(子供縁が薄い)

子供ができたら、早く子供を手放すことです。

『子供をつくってはいけません。』ということではありませんよ。

「宿命二中殺」の人が宿命どおりに生きている場合、親のほうは“寂^{さび}しい”と思うかもしれませんが……

「宿命二中殺」をもつ本人は寂しさにこだわることなくあっさりしています。

もちろん、別れるときには〔さびしさ〕は当然あるでしょうが、本人はその思いを引きずらないで淡々としているでしょう。

「宿命二中殺」の人の「日干支」は中殺されていません。「日干は本人」です。（日支は配偶者）です。

「日干の本人」と（日支の配偶者）の2人は中殺されていませんから、共に生きていけばよいのです。

☞ 親には——親自身の宿命があります。

ここでは〔親A〕と〔親B〕とします。

* 「生年中殺」をもつ子供の〔親A〕は元気です。

〔親A〕は「子供が家から早く出て行ってくれればいいのに……」と思っています。子供が早く出ていってくれれば、親にとっても、子供にとってもよいのです。

* 「生年中殺」をもつ子供の〔親B〕も元気です。

〔親B〕は「子供がいつまでも、自分たちと一緒に暮らして欲しい……」と願っています。

そして「生年中殺」をもつ子供が成人しました。
子供は元気な〔親B〕と一緒に暮らしています。
このような状況の場合は「生年中殺」をもつ子供の
ほうに問題が起きます。

〔親B〕と子供と一緒に暮らす条件を考えると……、
親がダメになっている状態であれば話は別です。
なぜなら「生年中殺」の子供は、親を不自然な状態
に追い込むのが宿命どおりです。
親に何の問題もなく元気であれば、「生年中殺」の
子供は自分の宿命に反している姿です。

親がダメになっている状態というのは、親が事業に
失敗したとか、親自身の結婚が破綻^{はたん}したとか、ある
いは、父か母の一方が他界したとかの状態を意味し
ます。しかし、その状況の程度にもよります。

「生年中殺」だけであれば〔その状況の程度にもよ
ります〕といえますが、「宿命二中殺」の場合には、
生年中殺と生月中殺の両方を宿命にもっていますか
ら、〔その状況の程度にもよります〕とは言えません。

「宿命二中殺」をもつ子供と親と一緒に生活してい
ると、親が病気になるという事態も起こります。

☞ 宿命二中殺は「一代運」です。

宿命には、本人の場所があり、親の場所があって、
子供の場所もあります。

親は「年干支」の部分、子供は「月干支」の部分、
本人は「日干支」の部分です。



この2ヶ所が不自然になっています。

自分の前（過去）も不自然で、自分の未来も不自然な状態
ですから「宿命二中殺」は一代運です。

一代運というのは ⇒ 自分の代で初めて、自分の代
で終わらせる。という意味です。

どんなに成功しても一代限りです。

「宿命二中殺」をもつ本人は、親の跡を継いではい
けません。宿命二中殺をもつ本人の子供も、自分の
跡は継いでくれません。（基本的に継がせてもいけません）

「自分だけ」「自分で終わり」という仕事に従事すれ
ばよいですね。

☞ 「^{しょだいうん}初代運」と「^{いちだいうん}一代運」は異なります。

❖ 初代運は、自分より前（過去）が無いのです。

自分から始まります。

未来につながる可能性があります。

❖ 一代運は自分一代ぽっきりです。

^{まえ}前も^{あと}後もないです。

「一代運」に子供を^あ当て^は嵌めて考えますと「子供が生まれない」ということではないのですが、男の子は生まれにくいと考えています。

〔子孫を生むのは女性の役目であり、家系をつないで行く

のは男子の役目です。家系を^{つな}繋いでいくことができない

という意味で、特に男子が生まれ^{にく}難しいです〕

男の子が生まれれば、跡を継いで欲しいと、ふつうは期待します。でも跡は継げません。

「宿命二中殺」の宿命をもつと、子供は生まれにくいのですが、女の子が生まれたほうが、男の子が生まれるよりも良いといえます。男子が生まれたとしても〔跡継ぎになりにくい〕〔なれない〕からです。

女子が生まれた場合は他家たけに嫁とつぎますから、必然的に親は「一代運」になります。

「宿命二中殺」は宿命の3ぶん分の2が不自然融合です。私たちの宿命は「年干支」「月干支」「日干支」の三柱さんちゆうで成り立っています。

そこで「年干支」「月干支」「日干支」の三柱さんちゆうを現実と考えた場合、二柱にちゆうの部分が不自然でありながら、その状態で現実界を生きてゆくことになります。

「宿命二中殺」をもった人は、将来的にどのような分野に向くのかと考えます。

現実的でない世界です。精神世界に向いています。

自然あの在り方かたを有形ゆうけいと考えた場合には、精神世界は無形むけいの分野といえます。

天中殺を不自然なもの、無形なものと考えた場合にですが、そのような観方もあります。

天中殺は不自然・不完全な状態です。つまり完成を求められない領域です。

それは学問・芸術の分野です。

学問や芸術はどこまでいっても際限がないです。

「ここだ」という限度が存在しません。

精神的分野せいしんてきぶんや — 終わりのないものを意味します。
終焉しゅうえんのない分野です。

☞ 「宿命二中殺」をもっているから、「悪い」とか、
「よくない」とか、そのような観方・捉え方とらをしないでください。

宿命の柱にほんの二本が中殺されているのは不自然な姿です。不自然ゆえに、不完全で形の無い分野に向いているといえるのです。その分野に強いです。

このような宿命は「精神的な分野に向かうほうが、生きやすくなる」というふうに考えてください。

精神的分野……形が無い世界という捉え方をするとよいでしょう。

参考：形〔見たり触れたりしてとらえることができる物の姿。〕

☞ 宿命二中殺の場合、大運天中殺はまずないです。後天運でまわってくるとしても、第一旬しかないとおもいます。これがまわるには120年かかります。大運天中殺は「月干支」から出てくるからです。

月干支からでる ⇒ いずれ勉強します

精神世界に向きますが、その世界での成功・不成功についてはとうぜん運勢からが絡みます。ここでいえるのは「精神世界に向いています」ということです。

⇒ 「陰占」の人物を特定する「^{ろくしんほう}六親法」と「^{じゅうにしんかんぼう}十二親干法」という技法をつかって基本的な説明をします。

✽ ベッキー 1984(s59)-3-6

宿命(4) ベッキー

	本人	母親	夫		牽牛星	天馳星	1 丙寅
	己	丁	甲				
子	亥	卯	子	戌	牽牛星	車騎星	11 乙丑
丑	甲			亥	天報星	龍高星	21 甲子
日干支の天中殺				生日中殺			31 癸亥
	壬	乙	癸				41 壬戌
	父親						51 辛酉

ベッキーの宿命は、日干「^{きど}己土」がベッキー本人です。

「己土」のベッキーを^{げっかん}生みだす母親は月干「^{ていか}丁火」です。丁火の母親が（^か火^ど→土）と己土のベッキーを^う産みます。

母親は「六親法」をつかうと、本来は「^{へいか}丙火」なのですが、ベッキーの宿命に無いので、月干の「^{げっかん}丁火」を陰陽で母親として^と採ります。

母親は「丁火」と決まったので、父親は「丁火」の^{かんごうあいて}干合相手です。父親は日支（^{にし}亥^{いすい}水）の^{ほんげん}本元〔^{じんすい}壬水〕になります。

⇒ 「六親法」は「研究専科」の課程で学びます。

宿命に人物を当て嵌めることができます。宿命(4)ベッキー

ベッキーの宿命には、彼女の兄弟も子供がいません。

きょうだいえん こどもえん
兄弟縁・子供縁は無いと宿命に書かれています。

本来ベッキーの子供は(土→金)で庚金になるのですが、
宿命にありません。庚金の陰陽で辛金もありません。
彼女は子供に縁がない宿命です。

ベッキーには実際に妹がいますが兄弟縁はないです。

兄弟というのは、自分が「己土」の土性ですから、宿命に
どせい
土性があれば兄弟がいますが、自分のほかに土性はありま
せん。宿命に兄弟がいないので兄弟縁はないです。

ここでの人物の特定は、「六親法」と「十二親干法」を
つかいました。このように技法をもちいます。

そして「だからどうなの……？」という話にもつな
がってゆくわけです。

実際には鑑定依頼者のご要望に即して占うようになりま
す。

ベッキーご夫婦を観ます。ここでは深くは観ません。

👁️ ベッキーの夫は片岡保幸です。

＊ かたおかやすゆき 片岡保幸

1983(s58)-2-17

宿命(5)夫

本人	丙	甲	癸		牽牛星	天馳星	5 癸丑
申	子	寅	亥	子	牽牛星	貫索星	15 壬子
酉		戊	甲	丑	天報星	龍高星	25 辛亥
日干支の天中殺		丙		生日中殺			35 庚戌
	癸	甲	壬		日干「丙火」の妻は辛金です。		45 己酉
					宿命に辛金は無いので妻はいません。		55 戊申

この人は〔片山^{やすゆき}易之〕〔片山^{やすゆき}治大〕⇒本名〔片山^{かたやまやすゆき}保幸〕へ戻った。
 怪我^{けが}が多いということだそうですが名前を変えています。

2004年「甲申」秋〔21歳〕西部ライオンズへ入団しています。天中殺の年の入団ですから思わしくないです。

彼の妻は「六親法」で辛金^{しんきん}になりますが宿命に無い^なです。
 辛金^{いんよう}の陰陽で庚金^{こうきん}も無いですから、女性そのものがない宿命です。

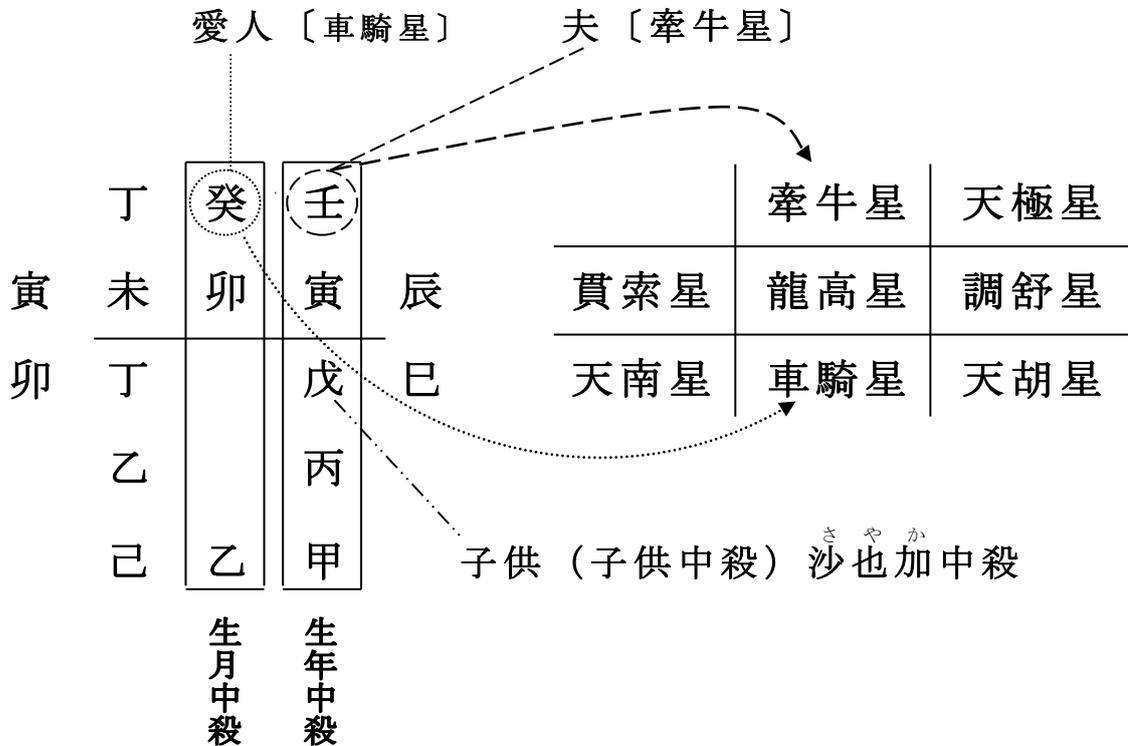
彼の大運をみると〔25歳〕から〔辛金〕がまわって来ているから、女性関係が多くなったといえます。

彼は2018年「戊戌」5月〔35歳〕からベッキーと交際。8月から（真剣交際）。2019年「戊戌」1月〔35歳〕婚姻届を提出。

夫とベッキーとのあいだに生まれた長女の宿命に母親のベッキーはいません。（よい悪いは論じていません。）

✽ 松田聖子 1962(S37)-3-10

宿命(6) 松田聖子



「宿命二中殺」ですから、生年中殺と生月中殺をもっています。

日干「丁火」から「壬水」をみると〔牽牛星〕です。

女性にとって牽牛星は夫の星ですが中殺されています。

日干「丁火」から「癸水」をみると〔車騎星〕です。

女性にとって車騎星は愛人の星ですが中殺されています。

松田聖子は (夫中殺) (愛人中殺) の宿命です。

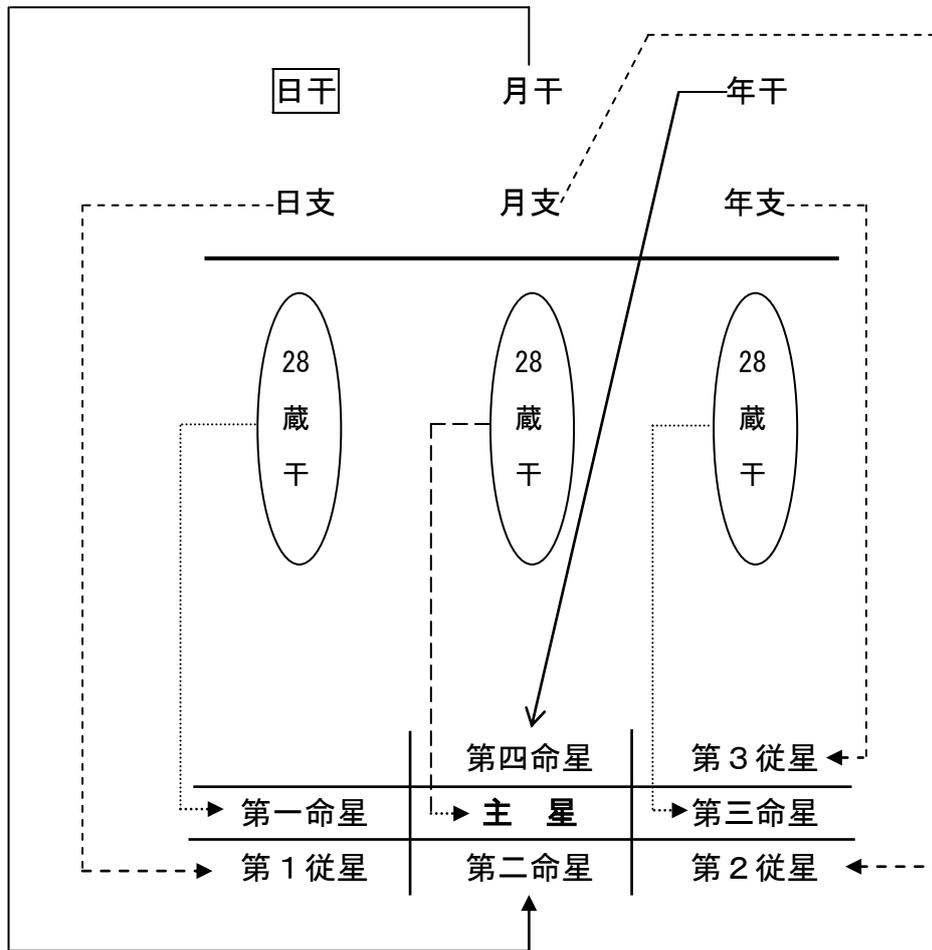
「月干支」子供の場所に愛人がいます (年下の愛人) と考えます。(子供の場所なので年下)

「年干支」親の場所に夫がいます (年上の夫) と考えます。

☛ 「生年中殺」と「生月中殺」の二十八元も中殺を受けます。

参考資料

星の変換 (陰占から陽占)



	年 干	年 支
日支の蔵干	月支の蔵干	年支の蔵干
日 支	月 干	月 支

☞ 松田聖子は「宿命二中殺」一代運です。

一代運は親とおなじ仕事をしないことです。

子供が自分とおなじ仕事をしてはいけないのです。

松田聖子は芸能界で生きています。

彼女の親は芸能人ではありませんから、松田聖子が芸能界へ入ってもよかったわけです。

かんだまさき まつだせいこ
神田正輝と松田聖子の娘（かんださやか）も芸能界に入りました。

松田聖子は「生月中殺」ですから、本来であれば、我が子が芸能界に入って来ないことが条件です。

☞ 松田聖子は九州出身、〔17歳〕のときに上京して芸能界に入りました。親から早く離れたことは正解です。

彼女は「生年中殺」をもっていますから、自分が中殺している親を頼りません。

「生月中殺」は自分が生まれた家系を中殺していますから、家系との縁が薄いのです。そして子供縁が薄いのです。

宿命に2つの中殺がある彼女が、親から離れたということは、彼女が成功する可能性をもっていたといえます。

松田聖子は神田正輝と結婚して娘・^{さやか}が生まれました。松田聖子は娘を義父母に預けて、^{とべい}渡米して

うきな
浮名を流した時期がありました。

松田聖子のような場合、男の子より女の子が生まれたほうが運勢上でよいといえます。

松田聖子自身が「生年中殺」ですから、自分の親との縁を薄くしています。親を頼りません。

「生月中殺」もありますから〔子供中殺の宿命〕です。彼女は我が子を中殺に追い込んでいる子供中殺の宿命です。彼女のほうから子供との縁を薄くしています。

そのひとつが夫の両親に子供を預けっぱなしという状態、このように子供との縁を薄くする姿は、松田聖子にとっては運勢が保たれている状態です。運勢的によい状態と考えます。宿命の3分の2が中殺を受けていますから、現実的世界にこだわらない生き方、固執しない生き方がよいわけです。

⇒ 「宿命二中殺」は反体制的な生き方に向いている
という言い方もできます。

彼女の行動はふつうとは異なる^{こと}生き方です。
その行動は、彼女が自分の宿命どおりに生きている
ということになります。

反体制的……それは反社会的という意味合いです。

ふつうは芸能人であっても、結婚して子供が生まれると、一時的に仕事を休んで育児に専念しますが、彼女はそのようなことは、全くなかったようです。その生き方は反社会的といえますが、「宿命二中殺」の彼女にとっては運勢上よいといえます。

☞ 彼女のとった行動そのものに対して、社会的に「良いとか・悪いとか」を論じていません。

「宿命二中殺」の運勢のうえで……彼女の行動は、自分を伸ばす条件がつくられた。ということです。

宿命のなかの「干^{かん}」に人物を^あ当^はて嵌めることができます。つまり、彼女の宿命に人物を当て嵌めて考えることができます。

透干（とうかん） ⇒ 天干^{てんかん}にでている「干^{かん}」を意味します。

そうしますと、彼女の^{にっかん}日干「^{てい}丁火」からみて、^{ねんかん}年干に^{とうかん}透干している「^{じんすい}壬水」は（水→×火）で「^{けんぎゅうせい}牽牛星」になります。

「牽牛星」には「^{せいふ}正夫（実際の夫）」という意味がありますから、松田聖子の夫になります。

年支の（^{とらぼく}寅木）は天中殺範囲です。年支（寅木）の上に載っている「^{じんすい}壬水 = ^{けんぎゅうせい}牽牛星（夫）」も天中殺範囲です。

ねんかん 年干にある「壬水 = 牽牛星 (夫の星)」が中殺されていま
すから、おとちゆうさつ 夫中殺ということになります。

つぎに、にっかん 日干の「ていか 丁火」からみて、きすい 月干の「癸水」
は (すいこくか 水→×火) で、星は [しゃきせい 車騎星] になります。

月干の「癸水」を星になおすと [車騎星] ですが、
しゃきせい 車騎星にはへんぶ 偏夫 (夫以外の男性 = 愛人) という意味が
あります。

げっし 月支の (うぼく 卯木) も天中殺ですから、その上に載って
いるげっかん 月干「癸水」(夫以外の男性 = 愛人) も天中殺範囲
に入ります。

「癸水」は [車騎星] で松田聖子のへんぶ 偏夫・あいじん 愛人。

☞ いんよう 陰陽という意味 ⇒ 「壬水」は五行で水性の (陽) です。

つまり、「壬水」は陽干 (陽の干) になります。

「癸水」は五行で水性の (陰) ですから「癸水」は陰の干です。

そうしますと「壬水 (夫)」と「癸水 (愛人)」が、
松田聖子の宿命にりょうとう 両透していて、中殺を受けている
ことになります。 両透 ⇒ 天干に2つでている。

彼女は (夫中殺) (愛人中殺) の宿命です。

それゆえ、彼女は異常なことをするわけです。

彼女とおなじ宿命をもっている人物が、必ず、彼女とおなじことをする。とは言っていない。

しかし、彼女の宿命は、自分が引き起こしたことで宿命が活いきることになります。

それゆえ、いろいろ問題を起こしながらも、人気は下降しないということが起こります。

これは彼女が宿命どおりに生きているからです。

そのことが〔よい〕〔悪い〕を論じていません。

彼女は（夫中殺）（男中殺）の宿命です。

その関係が逆になるような異いじょう状を起こします。

参考：異状〔ふつうとは違う状態〕

彼女の夫であった〔神田正輝に愛人のような姿を求めて〕〔愛人のジェフに対しては夫のような姿を求める〕というような事象も起こります。

必ず〔そうなる・そうする〕とは言いきれませんが、彼女はこのようなやり方をしたわけです。

☞ 年干ねんかんの「壬水じんすい」が夫の神田正輝です。

なぜ……夫の神田正輝が怒らないのかという 1 つの理由としては、妻が〔車騎星〕の男と色情の恋愛をしているからです。

「年干^{ねんかん}」は親の場所です。そこに「壬水^{じんすい}」の神田正輝がいます。さまざまに観方はできますが、親の場所に夫がいるということは〔かなり年上の夫〕というふうに考えることができます。

松田聖子の愛人は神田正輝より若い男性という意味が含まれます。

神田正輝にすれば〔聖子が子供を相手にしている〕というふうな感覚とも考えられますし、聖子との長い結婚生活に興味を失ったとか、それ以外にもいろいろあるでしょうが、自分とおなじような男との色恋沙汰になれば、許^{ゆる}し難^{がた}いということにもなるでしょう。それは自尊心が許せないといえますね。

このよう事柄を松田聖子の宿命から想定できます。中殺そのものは異常です。

さまざまに異状な質を見せることになります。

参考：異状〔ふつうとはちがったさま〕

参考：異常〔ふつうとは異なっていること。正常ではないこと。変態的〕

☞ 松田聖子の宿命の「天干」に男が2つ出ていて、その2つが異状な姿になっていますから、普通とは違った異常な男女関係をつくります。

世の中に男と女が生存しているということは、子孫

を残すという究極^{きゅうきょく}の目的があるわけです。

このことは人間に限られたことではなくて、自然界に生息するすべての動植物の究極の意識です。

中殺の異常な質の出方としては〔まったく男を知らないという生き方〕あるいは〔異常に男関係が多いという生き方〕になりやすいと考えています。

一度、男を知るとつきからつきです。

知らなければ、その対照的に〔尼^{あま}さん〕ということが起きます。

松田聖子の場合は男から男という人生になっています。(よい悪いを論じていません)

彼女の宿命は、自分の隣^{となり}に愛人がいて、その隣に夫がいるわけですから、どちらが私を満足させてくれるの……という意味にもなります。

夫に満足できない、男にも満足できないとなれば、つきからつきへと移ります。

満足できる夫、満足できる男に巡^{めぐ}り合^あい難^{にく}い星ともいえます。

それでは……松田聖子が満足するには、どうしたらよいのかということになります。

彼女とおなじ中殺をもつ人と結婚すればよいですね。結婚の場合は自分が「宿命二中殺」をもっているのであれば、おなじ「宿命二中殺」をもつ相手がよいのです。

あるいは「生年中殺」だけをもつ人物、「生月中殺」だけをもつ人物との結婚でも相当そうとうに違います。つまり、相手に「宿命^中殺」が1つでもあれば……かなり相性はよいといえます。

この相性についていえば……、

① 2人の組み合わせ

〔自分は中殺をもっている〕
〔相手は中殺をもっていない〕 > 相性はよくない

② 2人の組み合わせ

〔自分は生月中殺をもっている〕
〔相手は年年中殺をもっている〕 > 相性はよい

①と②を比べることはできないほど違います。

☞ 松田聖子は一代運です。

「宿命二中殺」の松田聖子は芸能界にいます。

彼女の子供(沙也加)が芸能界にデビューしただけで、

子供が跡を継いだことになってしまいます。

親の跡を継いだことが原因で禍がでます。

その程度はさまざまです。

親のほうが目になるとは限りません。

子供が目になるという話もあります。

どちらかが目になるという事態が起きても仕方がないといえます。

〔たとえば〕人気が出ない。幸せな結婚できない。

禍の程度によっては『死』もあり得ます。

そこには〔あなたの宿命にはこのように書かれています〕

という話があって〔あなたがこのようにしたら、結果はこうです〕という話が横たわっています。

それゆえ、運勢を観ることができるわけです。

松田聖子はなかなか見事な宿命です。

神田正輝の宿命では、彼女を自分のおもいどおりには

できません。宿命そのものに格差があります。

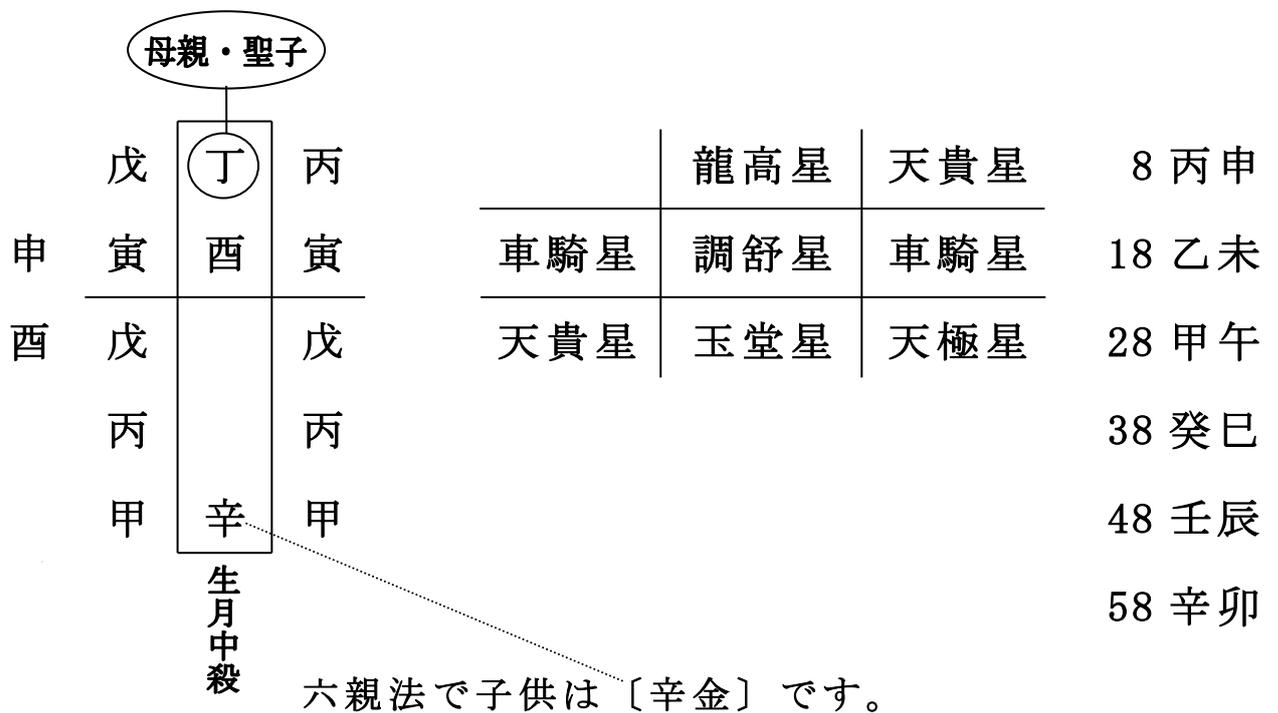
しかし……見事な宿命であっても、運勢が開花しないことは多々あります。

👉👉 59 回目「宿命二中殺」の続きです。

👉 前は松田聖子まで述べました。SD カード⇒ 250924-0852

👉 40 頁から「神田沙也加」です。SD カード⇒ 250927-0170

✿ 神田 ^{さ や か} 沙也加 1986(s61)-10-1 2021-12-18 [35 歳 世界]



沙也加 ^{さ や か} さんの ^{にっかん} 日干は「戊土」 ^{ぼど} です。

2017「丁酉」5月〔30歳〕 ^{みつ} のとき、村田充〔39歳〕とハワイで挙式。沙也加さん ^{とし} 天中殺の年です。

沙也加さんは ^う が生まれたのは、1986年「丙寅」 ^{へいかのどらぼく} です。

(1962年3月10日) - (1986年10月1日) = 24〔聖子24歳〕

1986年「丙寅」松田聖子が〔24歳〕 ^{とし} のとき、松田聖子の天中殺の年に生まれています。神田正輝と松田聖子の娘です。

松田聖子には「生年中殺」があり、そのなかに沙也加さんがいますから、松田聖子は子供中殺の宿命です。

それだけで——沙也加さんは母親との縁えにしがないのです。

沙也加さん本人の宿命は「生月中殺」です。

沙也加さんの「生月中殺」のなかには母親の聖子がいるから、沙也加さんは母親中殺でもあるわけです。

沙也加さんの宿命は〔母中殺〕〔子供中殺〕です。

もし沙也加さんが結婚して子供が産まれれば、月支（酉）の本元〔辛金〕が子供ですから、彼女の宿命は〔子供中殺〕です。

☞ 沙也加さんの宿命のなかに父親の神田正輝はいません。

☞ 沙也加さんの宿命には、夫となる人物もいません。

沙也加さんの宿命の内うちにはいろいろ書かれていますけど、宿命には弱点があります。

弱点があるから幸せになれないとは決まっています。

弱点を沙也加さんが克服こくふくすればよいのです。

* おおまかに説明しますが「六親法」ろくしんほう「十二親干法」じゅうにしんかんぼう「干合」かんごうなど

【初年】で学んでいない技法があります。

どうぞご了承ください。

❖ 神田沙也加の日干は「戊土」です。

戊土を生じてくるのは（火→土）で、火性が母親です
母（松田聖子）は月干の「丁火」ですが中殺されています。
沙也加さんは母親中殺の宿命です。

❖ 母親は「六親法」で「丁火」と確定しています。

干合という技法をつかうと、母親「丁火」の夫は干合相手
の壬水です。

壬水が父・神田正輝になりますが、沙也加さんの父に相当
する壬水はどこにもありません。六親法をつかいました。

父に相当する「干」が沙也加さんの宿命に無いですから、
彼女は父親に縁が無いということになります。

「十二親干法」という技法をつかえば、年干の「丙火」を父親と
して採ることもできますが、十二親干法はあくまでも代替です。

参考：代替〔本来のものをそれに見合ったほかのものに代えること。〕

これらの技法は上のクラスで学びます。

❖ 沙也加さんの日干は「戊土」ですから、彼女の夫にな

る「干」は、干合という技法で「癸水」になりますが宿命
にありません。「癸水」の陰陽で「壬水」をさがしますが
ありません。「癸水は水性の陰」「壬水は水性の陽」

沙也加さんの宿命は、夫に相当する「干」はありません。

夫おっとの「干かん=癸水」が無いので、男おとこの「干かん=壬水」をさがしてもありません。

夫・男に縁えんが無いということは結婚運がよくない宿命です。干支かんしの世界に夫おっとも男おとこも存在しないということになります。

「十二親干法じゅうにしんかんぼう」で日支にっし（寅とら）の本元ほんげんにある〔甲木こうぼく〕を夫おっととして採ることもできます。つまり、人物に相当する「干」が宿命にない場合「ほかの干かん」をつかって、人物を採る技法だいたいがありますが代替です。ここでは代替の十二親干法はつかいません。

⇒ はっきりいえば、沙也加さんの宿命おっとに「夫おとこ」も「男おとこ」もいないということになります。男えんに縁えんがないのです。端的にいえば「男そのもの」をわからない女性です。母親とは異なる意味で、夫・男を求めるといえます。それが〔よいとか〕〔悪いとか〕を論じていません。

宿命にはそのように書かれています。ということです。

端的にいえば、結婚運が悪い宿命です。

だからといって、結婚できないということではありません。

彼女とおなじように「宿命中殺」をもつ男性も適していますが、彼女は通常を上回っている宿命ですから、並なみの男だと嫌気が差すでしょう。参考：嫌気が差す〔もういやだとおもう〕

世の中には……、

〔結婚運のよくない女性〕

〔結婚運のよくない男性〕もおられますが、その人の結婚の在り方に^{そく}則して、結婚をすればよいのです。そのことはいずれ学びます。

⇒ 沙也加さんは、アメリカ在住のとき……日本人学校に通っていたそうですから、親と離れて暮らしていたことは、運勢的には味方しています。

沙也加さんの宿命で、母親とおなじ芸能界に入ったことが大きな問題です。

彼女の人体図は、二度運（人生を2回する）の持ち主と書かれていますから、まったく異なる生き方を求められている宿命でもあったわけです。

幸せになって欲しいのですが他界しました。

このことは勉強が進みますとご理解できるでしょう。

「宿命二中殺」終わります。

⇒ 宿命三中殺 (しゆくめいさんちゆうさつ) ^{しゆくめいぜんちゆうさつ} [宿命全中殺]

[A]	日干支	月干支	年干支		[B]	日干支	月干支	年干支	
	辛	辛	丙			甲	癸	己	
子	酉	丑	子	申	申	戌	酉	酉	寅
丑	酉	丑	子	酉	酉	戌	酉	酉	卯
日干支の天中殺	生日中殺	生月中殺	生年中殺	年干支の天中殺	日干支の天中殺	日座中殺	生月中殺	生年中殺	

「宿命三中殺」は〔A〕と〔B〕を参考にしてください。

〔A〕

日干支「辛酉 58」は子丑天中殺（自分の天中殺）です。
 年支（子）は生年中殺、月支（丑）は生月中殺という2つ中殺がありますから「宿命二中殺」です。

年干支「丙子 13」は申酉天中殺で、親の場所から（日支）の(酉)を中殺している『生日中殺』です。

〔A〕「宿命二中殺」と『生日中殺』があり、年支・月支・日支の3つが中殺されていますから「宿命三中殺」です。

天中殺表

甲寅 51	甲辰 41	甲午 31	甲申 21	甲戌 11	甲子 1
乙卯 52	乙巳 42	乙未 32	乙酉 22	乙亥 12	乙丑 2
丙辰 53	丙午 43	丙申 33	丙戌 23	丙子 13	丙寅 3
丁巳 54	丁未 44	丁酉 34	丁亥 24	丁丑 14	丁卯 4
戊午 55	戊申 45	戊戌 35	戊子 25	戊寅 15	戊辰 5
己未 56	己酉 46	己亥 36	己丑 26	己卯 16	己巳 6
庚申 57	庚戌 47	庚子 37	庚寅 27	庚辰 17	庚午 7
辛酉 58	辛亥 48	辛丑 38	辛卯 28	辛巳 18	辛未 8
壬戌 59	壬子 49	壬寅 39	壬辰 29	壬午 19	壬申 9
癸亥 60	癸丑 50	癸卯 40	癸巳 30	癸未 20	癸酉 10
子丑	寅卯	辰巳	午未	申酉	戌亥
12・1	2・3	4・5	6・7	8・9	10・11

〔A〕のように（年支）（月支）（日支）を中殺している場合には、宿命全部が天中殺の範囲になっていますから「しゅくめいさんちゅうさつ宿命三中殺（しゅくめいぜんちゅうさつ宿命全中殺）」とといいます。

〔B〕

宿命は「こうぼくのとりきん己酉^{きどのとり}46」「きすいのとりきん癸酉^{きすいのとり}10」「こうぼくのいぬど甲戌^{こうぼくのいぬ}11」です。

自分の日干支「甲戌 11」は申酉天中殺で、年支（酉）と月支（酉）を中殺して「宿命二中殺」です。

日干支が「こうぼくのいぬど甲戌^{にちざちゅうさつ}」の場合には「日座中殺」という名称があります。「日座中殺」も天中殺の仲間です。

日干支が「甲戌」の場合、宿命に日座中殺があると判断しますから「宿命三中殺」になります。

「宿命三中殺」は〔A〕と〔B〕の姿があります。
この宿命の特徴は「宿命全部が不自然融合」です。
宿命三中殺をもつ人は“変わり者”といえますが、
本人は自分を変わり者だとは思っていません。

〔それがよいとか悪いとかを論じていません〕

「生年中殺」あるいは「生月中殺」あるいは「宿命二中殺」
をもつ人は、自分が変わり者ということがわかっています。
「自分はちょっと変だな」とおもっていて、「ほかの人と
は異なる考え方をする」と自分でおもっているでしょう。
これら3つの宿命中殺の人は、まわりからそのように見ら
れていることを理解しているといえます。

☞ 「宿命三中殺」をもつ人は異なります。

異なるというのは、「生年中殺」あるいは「生月中殺」
あるいは「宿命二中殺」の人たちとは異なります

「宿命三中殺」は本人を含めた「三柱^{さんちゅう}」すべてが不自然に
なっています。三柱⇒「日干支」「月干支」「年干支」

「日干支」「月干支」「年干支」すべてが不自然融合ですか
ら、本人はまったく違和感がありません。

それが自然な姿で自然な状態です。

その状態が当たりですから『自分はどこかおかしい』とか

『自分はどこか変わっているところがある……』とか、
そのような意識をもてないのです。

⇒ 「宿命三中殺」の人も一代運です。

「宿命二中殺」は一代運です。

「宿命二中殺」に、もう1つ中殺が加わった状態が
「宿命三中殺（宿命全中殺）」です。

「宿命三中殺」は〔肉親縁^{にくしんえん}が薄^{うす}い〕人です。

〔自分に縁が薄い〕〔親と縁が薄い〕〔配偶者と縁が薄い〕

〔子供と縁が薄い〕です。

血族関係で頼る者は誰もいないことになります。

参考：肉親〔親子・兄弟など、きわめて近い血縁関係にある人。〕

「宿命二中殺は配偶者との縁がありましたから、配偶者と
共に生きてゆけばよいですね。」と言いました。

⇒ 「宿命三中殺」の人は、どのような生き方をすればよいのでしょうか。

肉親縁が薄くて宿命のどの場所も頼れません。

誰にも頼ることができないということは、徹底的に

精神性を高めないと生き難^いいのです。

ほかの宿命三殺をもっている人も、生きるうえで精神性を高めることを求められます。

しかし「宿命三中殺」の人は、特に精神を尊重する心の趣を働かせる必要があります。

精神性を貫き通す生き方が求められます。

参考：精神〔こころ〕

参考：性〔こころの作用。物事のたち。〕

参考：尊重〔価値あるとうといものとして重んずること。〕

参考：趣〔心を向ける意をあらわす。〕

〔心がある方向へ動いてゆくこと。〕

☞ 「宿命三殺」をもつ人は、厳しい状態、逆境ともいえる状況・状態に遭うことで、精神の趣が高まる質をもっています。

「宿命三中殺」をもつ人の場合は、生きるうえで、ほかの宿命三殺がある人と比べて、より高い精神性の在り方を求められます。

どのような事柄かといえ、現実面（お金・名誉など）に対して、無欲であることを胸中に徹底すること。このように考えています。

参考：在り方〔当然こうでなくてはならないという物事の望ましい状態〕

〔たとえば〕会社で出世しないということではありません。しかし、根底に無欲であることが必要です。厳きびしく自分りつを律する心の在り方あ かたを求められますが、大出世を成し遂げた人物もいます。

参考：在り方〔当然こうでなくてはならないという物事の望ましい状態〕

参考：律する〔ある規律に従って物事を判断し、処理する。〕

『肉親に縁が薄い』わけですが、人間関係で苦勞しますから、意図しない人間関係をつくることです。人間関係をうまく運はこぼうとか……それをめめざ指さないことです。

〔たとえば〕親、子供との関係を自分の思いどおりにしようと意図しないことです。そこになにかを期待しないことです。

社会における人間関係には友人とかの存在もありますが、その人達とうまくやっいこうとして……、よい関係・よい状態を考えても、期待したようには行かなくなります。それゆえ、うまくやろうと考えないことです。意い図としないことです。

参考：うまく〔意図（期待）したとおりにことを運ぶ〕

参考：意図〔ある目的をもって何か事をする。実現しようとする。〕

現実面を〔物・お金・名誉〕に^{たと}喩えましたが、人間は
お金に^{こしつ}固執しやすい生き物です。

〔たとえば〕お金にこだわると、お金で苦勞するとい
うことが起ります。

「宿命三中殺」をもつ人は、ひとつの物事に対して
深く^{おも}思い^こ込みやすい質をもちます。

宿命全体が中殺されていますので、精神性に^{てっ}徹する
(貫き通す) 生き方を求められます。

しかし、それ自体が非常に^い生き^{にく}難いのです。

それゆえ、^{せいぞん}実際に生存している人は少ないといえる
でしょう。^{そうせい}早世しやすいのです。

参考：思い込み〔そのことを思い切れないでとらわれる〕

参考：重きを置く〔重大なことと思う。〕

参考：生き方〔人生のありかた。生活の仕方・態度。〕

参考：自体〔一切のものを切り捨て、本質的はものだけを取り上げる意〕

参考：生存〔生きながらえること。この世に生きて存在すること。〕

参考：時点〔時の流れの上にある一点。〕

☞ 宿命に〔子供は親に縁がない〕と書かれていれば
〔我が子を^{たにん}他人の子供の^{ごと}如く育てるほうがよい〕と
いえるのですが、親は子供を可愛がろうとします。

それは親として当然なのですが、その時点^{じてん}から子供は自身の宿命から外^{はず}れてしまうことになります。本来であれば、親が子供を思いやり、愛情を子供に向けて育てるのがふつうといえます。しかし「宿命三中殺」をもつ子供を親が育てる姿は「ふつうとは異なる^{こと}」と考えています。

その育て方は、現在^{いま}では「ネグレクト」ではないか……と言われてしまうかも知れませんね。

参考：ネグレクト〔児童虐待の一形態。子供の食事や衣服の世話を怠り、長時間放置したりするなどの育児放棄〕

筆者もこの事象に触れたくないのですが、勉強としてお許しをいただきたいのです。

「宿命三中殺」をもつ子供を育てるとき、親御さんは自分の心^{こころ}を鬼^{おに}にしなければなりません。

それは親が子供に気に掛けない状態で育てないと駄目なのです。さきほど“他人の如く育てる”と書きました。

親御さんは、子供への慈愛の念をしっかりと気持ちに、心^{こころ}にとどめて、「宿命三中殺」の子供の成長を願って……

慈愛^{しんてい}の心底で自分の行^{ぎょう}を成^なすのです。念^{ねん}じて成すのです。親御さんの気持ちは苦しいでしょう。

しかし、育児放棄^{いくじほうき}とはまったく違うのです。 ➡

親が我が子を育てるときに、子供の^{しんちゅう}心中を同情的に考えることをしない。子供のほうも親なんかどうでもいい……。という感覚でないと、「宿命三中殺」をもつ人は生きていくことが非常に難しいと考えています。

つまり、お互いを『思いやる姿』は好ましくないのです。

参考：行〔心的活動〕

参考：念〔思慮でありエネルギー〕

参考：気持ち〔対象に対してそなえる心のもちかた。きがまえ。〕

参考：思いやる〔人の心情などに気をくばる。おしはかって気づかう。〕

「宿命三中殺」は宿命のすべてが不自然です。

その意味で、周囲の人とは異なる異質の世界を築く人です。異質の世界を^{つく}創りあげる人です。

そういう姿こそ、この人物の価値が出て来ますし、強く生きていかれるようになると考えています。

本人自身は気がつかないことが多いのですが……

このような人が会社に入って出世して行くと、その会社・その世界を引っ繰り返るような事が起ります。

⇒ 前にチラとふれましたが、国鉄を改革した JR 西日本の社長・井手^{いでまさたか}正敬（東大卒）は「宿命三中殺」です。JR 西日本の^{てんのう}“天皇”と呼ばれたワンマン経営者です。➡

1987(S62) 「丁卯」 JR 西日本副社長就任。

1992(H4) 「壬申」 社長就任。 2003(H15) 相談役就任。

2006年6月 [JR 福知山線脱線事故の責任を取り、相談役退任]

✽ ^{いで}井手 ^{まさたか}正敬 1935(s10)-4-3

	己	己	乙			車騎星	天報星	10	丙寅
寅	酉	卯	亥	申	鳳閣星	車騎星	司祿星	20	乙丑
卯			甲	酉	天貴星	貫索星	天胡星	30	甲子
日干支の天中殺	辛	乙	壬	年干支の天中殺	生日中殺			40	癸亥
								50	壬戌
								60	辛酉
								70	壬申

✽ 年干支「乙亥 12」は 申酉天中殺 その親の場所から見た天中殺範囲（酉）が、日支の（酉）を中殺していますから「生日中殺」があります。

年干支「^{おつぼくのいすい}乙亥」の干支は「日座中殺」という決まり事がある。

✽ 月干支「己卯 16」は「生月中殺」です。

✽ 日干支は「己酉 46」自分の天中殺は 寅卯天中殺 です。

こういう宿命をもつ人物でないと改革はできないのです。

「宿命三中殺」とは異なりますが、小泉純一郎前総理大臣は『大三合会局』という宿命です。

この宿命は小さな世界では生きにくいです。

一国の総理となることで宿命そのものが活きるわけです。

「宿命三中殺」は異質な存在ですから、後継者になれないのがふつうです。ところが、自分のほうから引っくり返すという事も起ります。

井手さんのように「宿命三中殺」が活きたときは、改革者としての生き様になり見事に変革します。

それが〔よいとか〕〔悪いとか〕論じていません。

組織を引っ繰り返して、自分で社長になるタイプですが、その地位を長く続けてよいのかどうかは別の話です。

改革後の JR 西日本・副社長就任は天中殺の年でした。

⇒ ふつうは「宿命三中殺」の人は出世しません。

なぜなら“扱いにくい人物”です。

それゆえ、左遷されるとかにもなります。

宿命を活かして改革して行くためには〔精神性がよほど強くないと無理です〕という話が横たわっています。

「宿命三中殺」をもつ人物の歩んでいる途を観察すると、

判りますが、その人物がエリートコースに乗っていれば、
将来やる可能性があると考えます。

そういう人物の下で働く、働かない、それは関係ありません。

その人物に付いて行けば、改革の一端を担うことにもなる
でしょう。

「宿命三中殺」場合「身強・身弱」に関しては、それほど
問わなくてよいです。

参考：エリートコース（和製語）

[将来、エリートになることを約束されている人の進路。]

「宿命三中殺」終わります。

📖 日座中殺 (にちざちゅうさつ)

日干支に「^{こうぼくのいぬど}甲 戌」あるいは「^{おつぼくのいすい}乙 亥」のある人です。

日干支「甲戌」 }
日干支「乙亥」 } **日座中殺**

天中殺の授業に入ったときに、「天中殺は不自然融合」といいました。

「^{ろくじゅうかんし}六十干支」をみると、^{じっかん}十干は「^{こう}甲」で、^ね十二支は(子)から始まっています。そして「十干」と(十二支)を組み合わせさせていったときに、十二支のなかで^{にし}二支が余ります。きっちりと組み合わせられない姿を不自然・不完全と考えたのが天中殺という話でした。

自然な結びつき										宿命 (1) 不自然融合		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸	甲	乙	丙
子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子

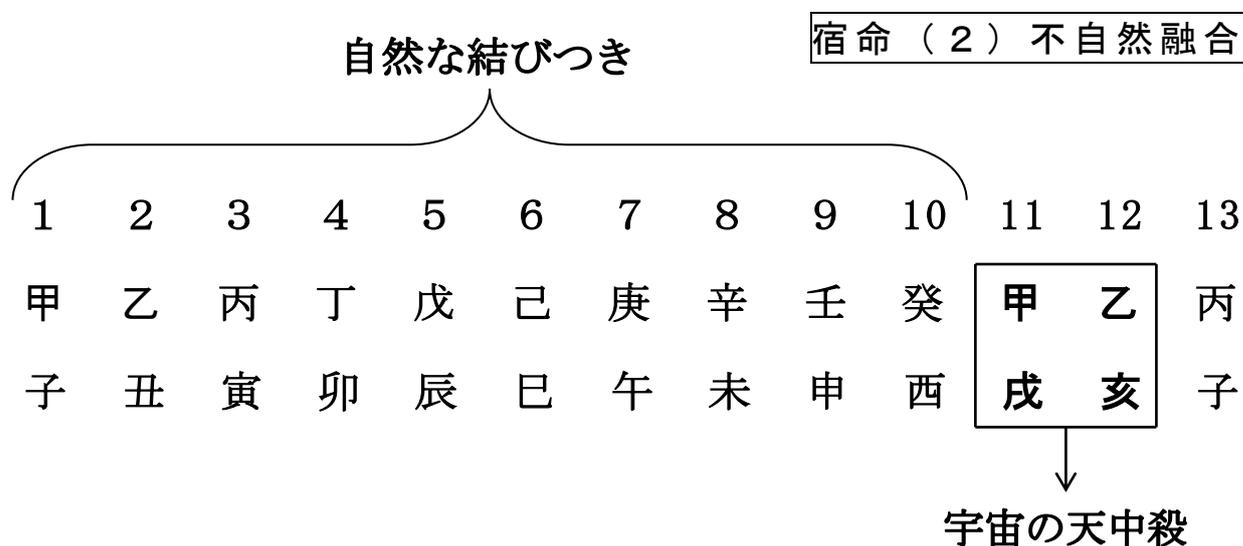
これは「十干」と(十二支)の組み合わせですから
「^{じっかん}十干」のほう「^{にかん}二干」不足します。

「空間」と（時間）がキチンと組み合わない状態は不自然・不融合な姿である。このように思考したのが天中殺という考え方の始まりです。

六十干支のすべての空間と時間を円盤に配置した宇宙盤の図があります。

（ここでは宇宙盤の図を記載しませんが生徒さんはお持ちです）

最初の^{ふしぜんゆうごう}不自然融合に位置する^{いぬ}（戌）と^い（亥）が存在することによって、宇宙空間の循環は成り立つという考え方をしています。



ここでは宇宙盤を記載していません。

そこで「六十干支」を^{よこれつ}横列に配置しました。

この横列の並びで、最初に起る不自然融合の^{かんし}干支は

「^{こうぼくのいぬど}甲 戌 11」と「^{おつぼくのいすい}乙 亥 12」です。

「^{こうぼくのいぬど}甲戌」と「^{おつぼくのいすい}乙亥」という「干支」の存在によって、宇宙の循環が成り立つという考えのもとに、「二つの干支」を「宇宙の天中殺」天中殺のなかの天中殺と位置づけて、「^{にちざちゅうさつ}日座中殺」と^{めいしょう}名称しました。

「^{こうぼくのいぬど}甲戌」と「^{おつぼくのいすい}乙亥」のどちらかが^{にっかんし}日干支にあると^{にちざちゅうさつ}「日座中殺」をもっている宿命になります。

「日座中殺」は『生日中殺』とよく似た現象を起こしますが、生日中殺とは異なります。

「日座中殺」は「干支」そのものが天中殺の範囲に入っていると考えています。

「日座中殺」は干支そのものが天中殺範囲に入っている。

☞ 日干支に「甲戌」または「乙亥」があれば、その宿命は「日座中殺」ですが、年干支あるいは月干支にある場合もあるわけです。

その場合は「日座中殺」の現象の出方はとても弱くなりますけど、影響が無いとは言い切れません。

日干支「甲戌」の日座中殺 }
日干支「乙亥」の日座中殺 } 自分自身が不自然になる

日干支に「甲戌」か「乙亥」の日座中殺があれば、自分の場所ですから、自分自身が不完全・不自然な状態になります。日干支は自分自身です。

自分が不自然になるという事象^{じしやう}を考えますと……

〔物事のまとまりのとき〕〔物事の完成のとき〕その最後の部分に欠点^{けってん}・欠陥^{けっかん}を見せるようになります。

つまり“完成”することに対して欠点を見せます。

その欠点はさまざまな分野において出ます。

〔まとまりのとき〕〔物事の終わりのとき〕に欠点^{けってん}・欠陥^{けっかん}をみせます。

〔たとえば〕女性なら、子供を産む分娩という最終段階（妊娠が始めなら……出産は終わり）で難産になりやすいとか、そういうところに出て来たりします。

仕事なら〔最後のまとめの部分〕でまとまりが付かなくなる現象を起こします。

それは物事の最後、人生の最後にも当て嵌^あまり^はります。

このような現象を引き起こすという意味において、最後の部分は“相手任せ”とか、自分の意志^{いし}・意思^{いし}を止めてしまえばよいですね。

最後のまとめり・整理をバラバラにしてしまうので、自分の意見・意志・意思を停止させて、相手に任せればよいのです。

参考：欠点〔不足・不十分な所。弱点。〕

参考：欠陥〔かけて足りないもの。不備な点。失敗。〕

参考：意志〔物事を成し遂げようとする、積極的な心の状態〕

参考：意思〔考え。おもい〕

「日座中殺」は〔まとまらない〕〔完成できない〕という意味で、完成を必要としない分野において力を発揮します。^{ちから}

「日座中殺」は完成を成すことをできません。

完成を必要としない分野でチカラを発揮します。

その領域は現実的でない分野です。

精神的なものは終わりがないので、その領域に向いています。

芸術・学問など形のない世界で成功するといえます。学問には範囲・限界はありませんので〔天中殺のときは勉強がすごく進みます〕と前にもいいました。

しかし“受験”の場合には、試験時間という制限があります。

『^{わく}枠』がありますから、自分がおもうほどに進まない。という現象が起こるとされています。

そのようなときは、意気込むとか、焦ることなく、自分のペースで進むことが望ましいでしょう。

参考：則する〔あるものを基準としてそれに従う。法律に即して〕

参考：枠〔範囲。限界。制限〕

参考：ペース〔自分の進みぐあい。勉強のリズム。〕

「日座中殺」は頭のよい人が多いです。

頭のよさで世の中を渡っていく人、頭のよさで物事を乗り切ろうとする人……そのようにもいえます。

「六十干支」の異分子です。

^{わく}枠がないので「宇宙の天中殺」といえます。

その意味で変わった発想をします。

それは「日干支＝自分自身」が天中殺だからです。

自分が不自然なので変わり者ともいえます。

☞「生年中殺」の場合は、親を中殺に追い込むという部分で変わっているかも知れませんが、本人は正常です。

「日座中殺」宇宙の天中殺そのものが自分です。
この世に存在していないかのような発想をします。
これを「宇宙的な発想」という言い方をします。

〔たとえば〕なにかの勉強をしているのに、まったく別のことを考えたりします。

宇宙的な発想という意味では、スケールが大きい、器が大きいです。

しかし、実際にその器を生かして、現実^いに活かすことができるのか、それは本人次第ですが基盤は大きいです。

参考：現実〔現在、事実として当面していて無視することができない事柄〕

「日座中殺」をもつ人が、配偶者に満足すると（大切にすると）子供が駄目になるとか、子供を大切にすると夫婦仲が悪くなるということも起こります。

それはどういうことかといえば、「日干支」が不自然ですから、「天干」の自分も（地支）の配偶者も不自然です。不自然な夫婦がつくる家庭です。

それゆえ、当然な結果として、どこかが不自然になるために、子供を大切にすると夫婦仲に問題が生じるとか、夫婦仲がよい場合は、親子のあいだに問題が生じるということが起ります。

☞ 日座中殺をもつ人の結婚。

「日座中殺」の人は、相手も日座中殺の人が相性ですけど、日干支「甲戌」の人なら、相手の日干支は「乙亥」というように、お互いの日干支が異なることがよいのです。

あるいは、自分が「日座中殺」なら、配偶者になる人は……なにか「宿命中殺」をもっていればよいです。

日座中殺と生月中殺とか、日座中殺と生年中殺とかです。

☞ 日干支がおなじ者同志の結婚はよくないです。

このことは日座中殺に限ったことではありません。

ほかの宿命中殺をもつ人の結婚もおなじです。

宿命中殺をもたない人の結婚もおなじです。

なぜかといえば、「日干支」は自分ですから、自分とおなじ「干支」の人は、自分とまったくおなじ世界といえます。

『ひとつの家庭におなじ世界は必要ない』と考えています。ほかのものがが必要です。

〔たとえば〕「こうぼくのいぬど甲戌」と「こうぼくのいぬど甲戌」の結婚だと、自分とおなじ世界ですから理解し合えます。

しかし、いや嫌になると……とことん嫌になります。

参考：とことん〔そこが限界でその先はもう無いという所。〕

☛ 「日干支」がおなじ結婚は、最も相性^{あいしょう}の悪い結婚です。(これは日干支がおなじ同士の話です。)

お互いに好きなきときはよいですが、嫌いになったら大嫌いになります。

このような姿は「日座中殺」に限ったことではありません。

「日干支」がおなじ者同士の結婚は、最悪の相性と位置づけています。

☞ 「日座中殺」一代運です。

「日座中殺」は自分への中殺です。

宿命のなかに、親がいて、本人がいて、子供がいれば、〔自分を生んだ親〕〔自分の子供〕は大丈夫です。

しかし、自分自身が不自然で別世界の人間ですから、我が子へ繋^{つな}ぐことはできません。

政治家では「竹下登」「土井たか子」が「日座中殺」をもっていました。

土井さんにしても、竹下さんにしても、辞めるときがスッキリしていません。

両氏の宿命を書きました。 ➡

✽ ^{たけした}竹下 ^{のぼる}登 1924(s10)-4-3 2000(h12)-6-19 [76 歳没]

申 酉	乙	丙	甲		石門星	天胡星	3	丁卯	
	亥	寅	子	戌	鳳閣星	石門星	13	戊辰	
	甲	戊		亥	天極星	調舒星	23	己巳	
		丙					33	庚午	
	乙	甲	癸				43	辛未	
							53	壬申	
								63	癸酉
								73	甲戌

日座中殺

リクルート事件
1989年「竹下登内閣総辞職」

✽ ^{どい}土井 たか子 1928(s3)-11-30 2014(h26)-9-20 [85 歳没]

申 酉	甲	癸	戌		禄存星	天堂星	3	甲子	
	戌	亥	辰	戌	禄存星	龍高星	13	乙丑	
	辛	甲	乙	亥	天印星	玉堂星	23	丙寅	
	丁		癸				33	丁卯	
	戊	壬	戊				43	戊辰	
							53	己巳	
								63	庚午
								73	辛未

日座中殺

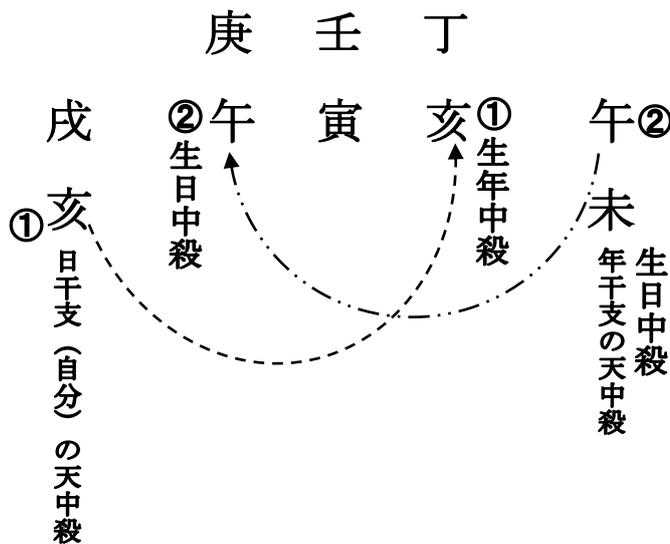
「拉致疑惑など存在しない」

「日座中殺」終わります。

⇒ 互換中殺 (ごかんちゅうさつ)

「互換中殺」は生年中殺と生日中殺の2つをもっている人です。

宿命(1) 互換中殺



① 日干支「庚午(自分)」の天中殺が戌亥天中殺です。その戌亥天中殺が「年干支(親)」を中殺していますから「生年中殺」です。

② 年干支「丁亥」は(親の場所)にある干支です。親の場所にある「丁亥」は午未天中殺です。親の天中殺(午)が日支=配偶者場所の場所にある(午)を中殺しています。この姿は『生日中殺』です。

宿命(1) 互換中殺 をみてわかるように、「①生年中殺」が

あります。自分が親を中殺して親縁^{おやえん}を薄くしていますから
自分は親を頼ることはできません。

そして『②生日中殺』もあります。

生日中殺は親のほうが子供との縁を薄くしていますから、
親は子供を頼れません。

☞ 「干」と（支）は^{ひとくみ}一組です。

（支）が中殺されれば、上の「干」も中殺されます。

正反対の2つの中殺をもっているのが互換中殺^{ごかんちゅうさつ}です。
そのため、性格も運勢もまったく正反対の親子関係
がつくられます。

このような親子関係になりますと、親が上昇すれば、
子供は下降します。この状態がシーソーです。

ここでは「親と子の関係が正反対になる」といっていま
すが、それはどういう意味なのかです。

〔たとえば〕親夫婦と子供夫婦の場合でいえば——
両親の夫婦仲がよいと、互換中殺をもつ本人の夫婦
仲が悪くなるとかの状態です。

その逆もあります。

さまざまな分野で比較できますが、おなじ分野に限ります。

- ❖ 親が成功している分野では本人が失敗する。このような現象も起きます。
- ❖ 親が跡取りなら、本人は養子のようにになってしまうということも起こります。
- ❖ 親が長生きしたら本人は短命で、親が短命なら本人は長生きということも起こります。

ごかんちゅうさつ
互換中殺の人は自分の生家せい かとの縁が薄くなります。
先祖代々の流れを、この人で断ち切るのが役目です。
親と一緒に住んで居なくて、その役目は与えられています。

☞ **一代運** と **初代運** まったく別のものです。

間違いやすいので、ハッキリと区別してください。

一代運 自分一代限りです。

「宿命二中殺」「宿命三中殺」「互換中殺」「日座中殺」

初代運 先祖、あるいは、親の跡を継げないけれど、

自分の代から後はずないでいける可能性をもつ宿命。

「生年中殺」「生月中殺」

* 松下幸之助 1894(M27)-11-27 1989(S23)-4-27 [94歳没]

	癸	乙	甲			調舒星	天馳星	4	甲子
戊	酉	亥	午	辰	龍高星	石門星	祿存星	14	乙丑
亥		甲		巳	天胡星	鳳閣星	天將星	24	丙寅
			己					34	丁卯
	辛	壬	丁					44	戊辰
		生 月 中 殺						54	己巳
								64	庚午
								74	辛未
								84	壬申

☞ パナソニックの創始者・松下幸之助氏の宿命は「生月中殺」でした。

生月中殺は〔養子をもらって跡を継がせる〕あるいは、〔自分が死んだ後に跡を継がせる〕ということであればよいわけです。

自分が生きているあいだは「生月中殺」の中殺現象が活いきていますから、子供が駄目になります。

自分が死んだ後あとに、跡を継がせる場合は問題ないのです。

☞ 跡継ぎ・後継者に対して、血のつながりを問いかけていません。

血のつながりの部分もありますけど……家系をつなぐというのは血縁だけではありません。

あるいは、会社をつなぐというのも、血縁ばかりではないわけです。

☞ 「ごかんちゅうさつ互換中殺」をもつ女性は、親の後継者としてつな繋ぐことができるのでしょうか……？

「互換中殺」は生年中殺と生日中殺の両方をもっている人です。

女の子が「互換中殺」をもっている場合も後継者としてつな繋がりません。自分が生まれた実家は駄目です。ただし「互換中殺」をもつて生まれた女の子が他家たけに嫁げば（お嫁にいつてしまえば）、実家の親の影響を受けなくなります。

それゆえ「互換中殺」の女の子がお嫁先（他家）で跡を継ぐということは構いません。

お嫁に行ったからといって、「宿命はず中殺」から外れることはないですよ。

「宿命はず中殺」は本人が死ぬまでついてきます。

他家に嫁^かすということは、「互換中殺」をもっていて
も、お嫁に行けば自分の実家から外^{はず}れるわけです。
それゆえ問題はないのです。

その意味では……男子より女子のほうが生きやすい
といえます。

「互換中殺」終わります。

⇒ 同一中殺 (どういつちゅうさつ)

宿命 (1) 同一中殺

	①						②			
	丁	壬	乙				甲	戊	辛	
寅	未	午	未			寅	辰	戌	丑	
日干支 (自分) の天中殺	卯					卯				

「同一中殺」は、^{どういつちゅうさつ}①と②のように、おなじ天中殺をもつ者同士のあいだで生じる^{じしょう}事象です。

①と②はおなじ^{とらう てんちゅうさつ}寅卯天中殺です。

「同一中殺」は運勢の周期がおなじですから、運勢のよいときも、運勢の悪いときも一緒です。

天中殺以外のときでも周期が一緒になります。

〔たとえば〕同一中殺の人物が5人いるとします。

そのなかの1人の運勢がよくなると、みんな一緒に運勢がよくなる。という事象が起り得ます。

天中殺の事象は何人いても見られます。

参考：事象〔さまざまな物事や現象〕

「同一中殺」は親子関係、夫婦関係の人たちになかで起ります。集団なら何人いても構いません。ただし、おなじ天中殺をもつ者同士に限ります。

☞ 公共の場で隣どうしに座ったとかは関係ないです。

なぜなら運勢を共にともしていません。

参考：共に〔あるものが、ほかのものとおなじ状態であるさま〕

そこには『運勢を共にしている』という条件が加わります。

〔たとえば〕「同一中殺」はおなじ天中殺をもつ友達であれば、縁えんが深くなると運勢の流れがおなじというような現象が起こります。

会社の同僚の場合は、どの程度の交際なのかということになります。付き合いの深さ・段階にもよりますけど起こり得ます。

縁を深めれば深めるほど、その現象は強くでます。

親子で「同一中殺」の場合は、一緒に住んでいると現象が強くでます。

離れていれば、それだけ薄くなっているといえます。

参考：縁〔二つ以上のものが寄りついてかかわりを持つ作用を意味する〕

〔人間同士の結びつき〕

⇒ 本人が同一中殺で、本人と一緒に物事を始める人も同一中殺の宿命ということもあるわけです。運勢の周期がおなじですから、上がるときも一緒に、下がるときも一緒にということになります。それが「よいとか、悪いとか」論じることはできませんが、集まれば集まるほど、その勢いは激しくなります。

〔たとえば〕 **宿命(1) 同一中殺** を夫婦とします。

夫婦の場合は—— ①の周期とおなじ運勢を②も歩むことになります。

①と②が合わさると、上昇するのも倍、下降するのも倍になりますから、人生の波が非常に荒あらくなるということです。

〔たとえば〕 経済ということでは……。

お金が儲かるときは沢山儲かりますが、困ったときには困窮こんきゆうしてしまっ、どうにもこうにも、いかないう状況になります。

このような状況に夫婦で陥おちいったとしても、天中殺の周期が違えば（同一中殺の夫婦でなければ）一方の運勢が悪くても、片方が助けになりますから、同一中殺の夫婦のように落ちなくて済むということです。

「同一中殺」の場合は、^{そうじょうさよう}相乗作用でお互いに激しい上昇と下降が起ります。

上昇だけで済めばよいといえますけど、下降したときに助けがないのです。

〔たとえば〕会社でもそうです。

「同一中殺」の2人が会社を設立した場合、2人がおなじ天中殺ですから、儲かるときは儲かるでしょうが、何か困難に陥ったときに、お互いに助けになりません。

宿命(1) 同一中殺 の①と②を友人と仮定していえば、この2人の自分の天中殺は寅卯天中殺ですが、自分の天中殺まわっている時期に関係なく起ります。

②に何か問題が起きて、①の助けが必要というときに①は助けになりません。

お互いが助け合うことができないのです。

そして、困った状況が天中殺に重なった場合には、極端な現象として出ます。

☞ 「同一中殺」の夫婦の場合は、一緒に運勢が下降します。一緒に落ち込むということが起こります。

〔たとえば〕 夫が風邪で寝込んでいると、妻も風邪で寝込むというような状況です。

そうなる、お互いを介護できない状態に陥ります。運勢のサイクルがおなじですから、一方が上がれば片方も上がります。一方が下がれば片方も下がります。

活動と休息の周期がおなじですから、お互いの運勢の相乗作用そうじょうさようで、運勢が一気に上昇して、一気に下降する。ということになります。

そのかわり、夫婦で「同一中殺」の場合は、目的に向かって一体となって前進することができます。

2人のエネルギーが集中して発揮されたときの協力関係は見事です。

ところが……夫婦のあいだに溝みぞができてしまうと、おなじ周期だけに折り合うことができなくなります。その関係が極度に悪化すると、運命共同体であるがために、離婚もできなくなります。

お互いの足を引っ張り、憎み合う関係にもなります。

参考：相乗作用〔いくつかの要因が重なると、個々に働くときの作用よりも多くの効力をあらわす作用〕

参考：折り合う〔意見の違う者（対立している者）が互いに譲り合って、

おだやかに物事を解決する。〕

〔たとえば〕一方が〔別れましょう〕といいだすと、
他方が条件を突きつけてくるとか、憎しみを抱くと
かで、なかなか別れられないという状況も起ります。
そのために、離婚の裁判で5年も10年もかかるとい
う事態なってしまいます。

あるいは、お互い〔同一中殺同士で結婚〕しました。
“途中で別れたい”と思ったとき、〔仲が悪いのに別
れることができない〕悲惨ともいえる腐れ縁です。

⇒ 夫と妻が「同一中殺」で、夫は大運天中殺に入
りました。妻のほうは大運天中殺に入っていません。
ところが、夫婦2人が同時に大運天中殺に入ったよ
うな現象を起こします。

この現象は「同一中殺」の特徴です。

同一中殺の場合だけに限ります。

〔たとえば〕妻が子育てに悩んでいるときに、夫が
病気になるとかです。

あるいは、妻が天中殺のときで、しかも、子育てで
大変な時期に夫が浮気するとか……このように禍
が倍加する状況が起きます。

当然——悩みは膨らみます。

つまり、よいときも悪いときも“倍加する”という好ましくない状態にはまりこむと考えてください。具体的に何倍になるとか……それはわかりません。

⇒「同一中殺」の夫婦に天中殺がまわって来た時期に……何か問題が出てきて、その処理や解決が困難になってしまうご夫婦もおられます。そのようなならないご夫婦もおられます。

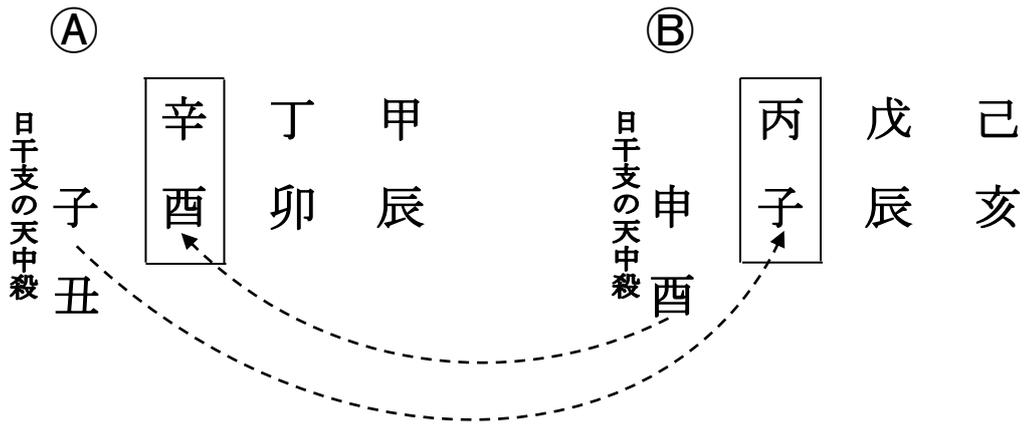
つまり、悪くなるときは、極端に悪いほうへ傾くかたむという特徴があります。

そうしますと“相性”あいしょうということでは考えたときに、相性が〔よいのか〕〔悪いのか〕どうもはっきりと確認できないということがあります。

「同一中殺」終わります。

⇒ 相互中殺 (そうごちゅうさつ)

宿命 (1) 相互中殺



自分の天中殺が相手の「日干支」を中殺します。

相手の天中殺が自分の「日干支」を中殺します。

〔たとえば〕 ①と② 2人の人物がいます。

①の子丑天中殺が……②の日支(子)を中殺します。

②の申酉天中殺が……①の日支(酉)を中殺します。

このような組み合わせです。

お互いに相手の(日支)を中殺しますから、当然ですが、

上に載っている「干」も中殺されます。

この組み合わせを相互中殺といいます。

※ 「相互中殺」は見逃しやすいので気をつけてください。

①と②は別々の天中殺を所有していて、^{たが}互いに中殺し合う姿ですから、互いの運勢がシーソーすることになります。

^{たが}互いの運勢がシーソーする。

宿命の天中殺範囲が異なりますから、当然、気質や人生の目的・価値観も違ったものになりますけど、お互いに無いものを補い合って進むことができますから、助け合って協力する関係になります。

それではどうなるのかといえは……。

①と② 2人のあいだに能力の差はないとして……

〔たとえば〕①のほうは経理の内勤で、②のほうは営業というように、仕事を分けて配置されるようなことがあります。そのことで、片方が得意な分野は片方が不得意になるということも起こります。

①に営業ができないということではないのですが、このような状態も生じます。ということは……目的が相手とおなじであれば、仕事などを分けて受け持つことで、お互いに補い合うことになりますから、

長く協力し合える関係を得ることもできます。

目的にむかって、共に^{とも}前進してゆくことができます。

☛ この2人が天中殺に出会った場合は、両者の関係は続きません。

☛ 2人の目的が異なれば、2人の協力関係は続きません。

(このことは……2人の関係は天中殺の出会いであった。
そのことに関係なく続きません。)

参考：状態 [移り変わってゆく、人や物事のある時期におけるありさま]

参考：起こる [今までなかったところに、ある物事や状態が生じる]

☞ 相互中殺の場合は、一方が病気で仕事ができない状態でも、運勢の周期が違いますから、片方はそれを^{おぎな}補うことができます。

夫婦の場合は、得意な分野と^{とくい}苦手な分野^{にがて}をお互いに作り出していきます。そして2人で補い合いながらひとつの目的に向かって前進して行くわけです。
夫婦はお互いの欠点を補い合う状態になります。

〔たとえば〕父と母がいます。

2人は「相互中殺」の結婚をしたという場合には、お互いの欠点を補い合いますので、物事がとどこおりなく、すらすらいくという長所もあります。

「同一中殺」のような腐れ縁にはなりませんから、別れるとしても、きれいに別れることができます。

☞ 子供が「お父さん自転車買って」と父親にいうと「買ってあげるけど、お母さんにも聞かないとね」そう言ったときに、母親に訊くと「もう少し待ったほうがいいわ……」という食い違いが出てくると、〔子供はどっちつかず〕になってしまい、どうしてよいのか判らなくなります。

つまり、相互中殺の夫婦の場合には、子供に欠点が出やすいということがあります。

両親の意見がたびたび違うことになれば、精神的に不安定な子供になるともいえます。

そのようなことが度重なれば、子供は両親の顔色をうかがって、〔母に付くか……〕〔父に付くか……〕という気持ちをいだく片寄った子供になりやすいということが起こります。

どっちつかずといっても、子供は母につくか、父につくか、そのどちらかですが、一方に決めることができない状態になるわけですから、一方づくようにもなるわけです。

そうなると、片寄った考えの子供になりやすいともいえますし、子供の成長が中途半端になりやすいともいえます。

このことは「相互中殺」の夫婦に限ったことではなくて、国際結婚している夫婦の子供や、両親の年齢が大きく離れている場合の子供にもおなじことがいえます。

それゆえ〔まったく駄目な子供〕か〔天才的な子供〕のどちらかというようなことも起こります。

参考：気持ち〔ある物事や人に対していただく心の状態〕

参考：顔色〔感情のうごきの表れた顔のようす〕

参考：顔色をうかがう〔相手の顔のようすで、その心のうごきを察する〕

参考：中途半端〔物事の完成まで達しないさま。どっちつかずのさま。〕

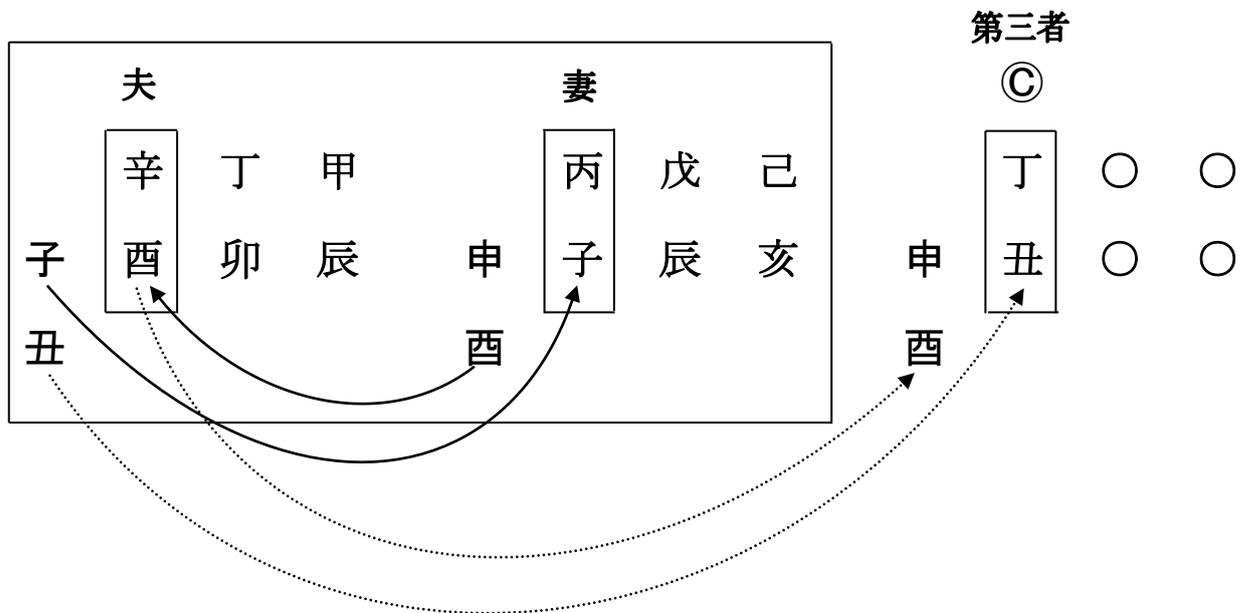
「相互中殺」の場合は、原則的に2人の偶数関係で成り立ちます。3人で相互中殺になる場合であれば、1人がはみだすことになります。

「相互中殺」は異なる『氣』をもつ集合体です。

奇数の場合は、集団に入りきれないで、集団を壊す作用が働きます。

⇒ つぎの命式を夫婦として考えます。

宿命(2) 相互中殺



夫と妻が「相互中殺」になっています。

そこへ第三者◎さんが現れて、夫とのあいだに「相互中殺」の関係とつくったといいます。

夫は◎さんに不足を補ってもらえることになりますから、妻の働きを必要としなくなります。それが昂じてくると、◎さんが夫婦の仲を裂くようにもなるわけです。

このような場合、◎さんが女性（夫の愛人）でも、会社の同僚の男性でも、あるいは、この夫婦の子供でも、おなじような現象が起ります。

☞ 宿命中殺をもっているから「後天天中殺」の影響は出ない。そのようには考えないでください。

宿命中殺があるというのは、その人は常に天中殺をもっているわけです。

〔後天天中殺に対する免疫がある〕とはいえますが、なにか起こったときには天中殺の現象が出ます。

宿命中殺（生まれながらに宿命に天中殺をもっている姿をいう）

後天天中殺（後天運でまわってくる、年運あるいは大運の天中殺をいう）

「相互中殺」終わります。

ここまでは「天中殺」の概論^{がいろん}です。

参考：概論〔全体にわたって、大要をのべたもの〕

参考：大要^{たいよう}〔大体の要点〕

【初年】59回目【天中殺論(5)】 **終わります**

つぎの授業 ⇒ 【初年】60回目【天中殺論(6)】です。